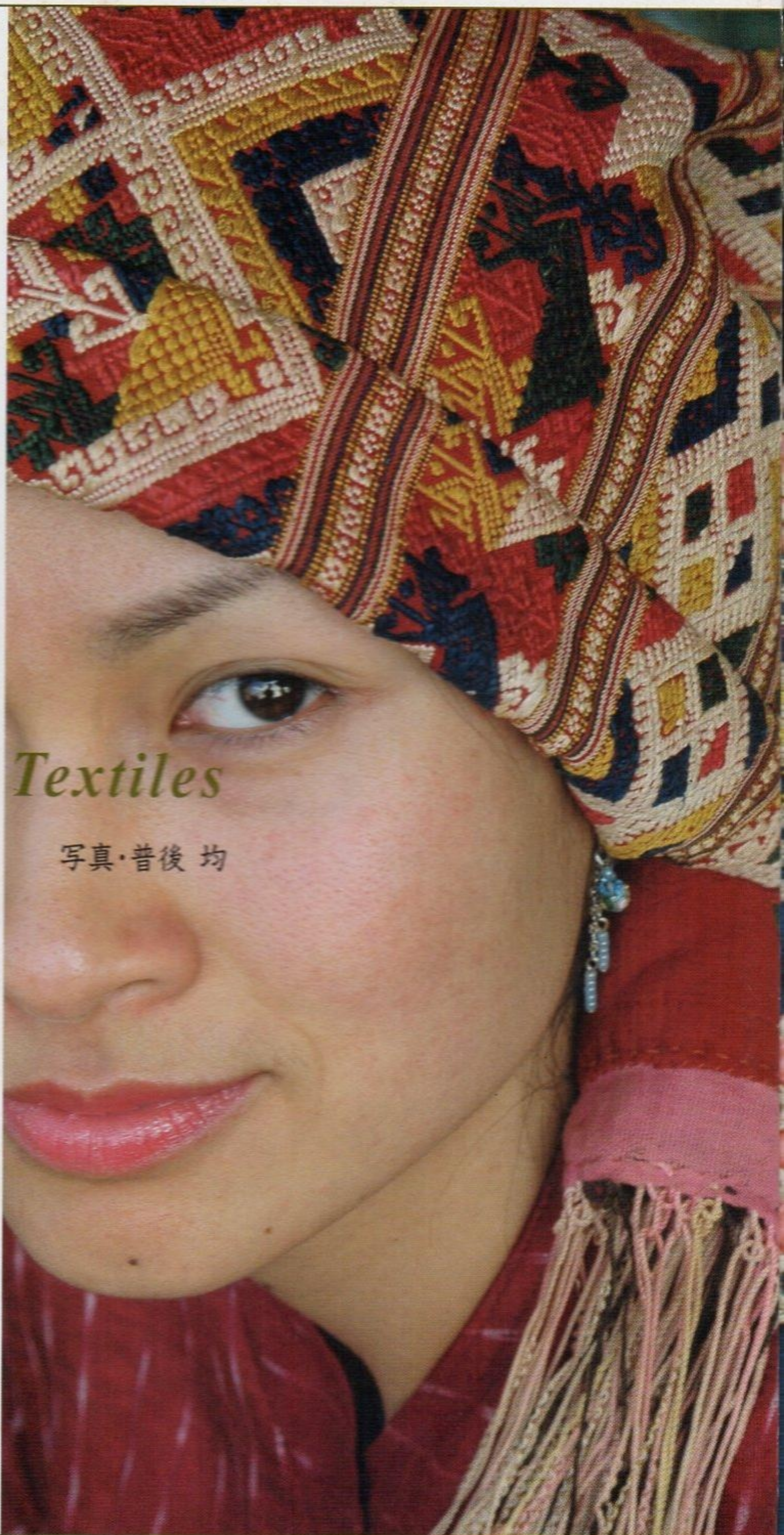


ラオスの布
を楽しむ

Enjoying Lao Textiles

チャンタソン・インタヴォン

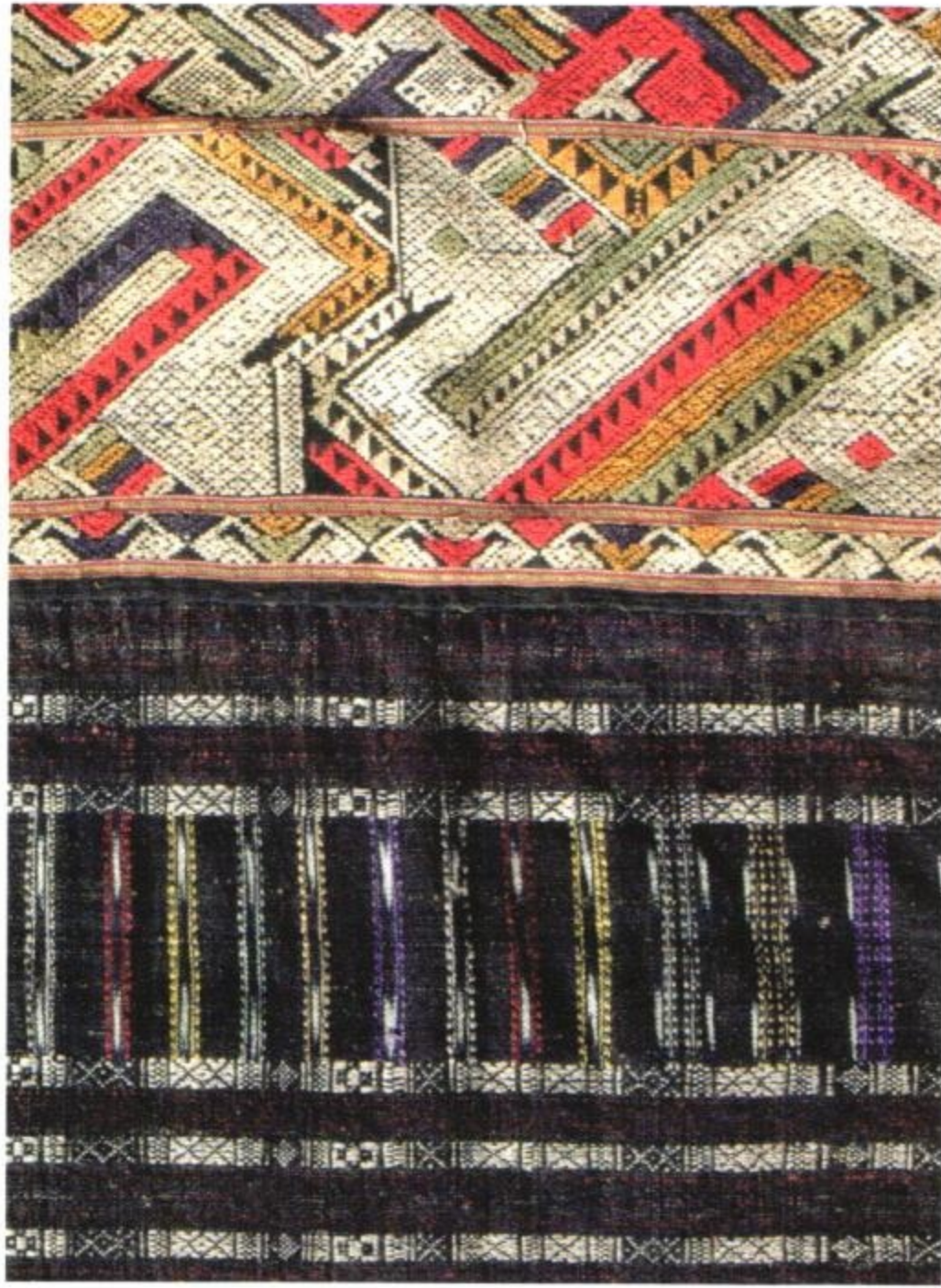
写真・普後 均



ラオスの布を楽しむ

Enjoying Lao Textiles

チャンタソン・インタヴォン
Chanthasone Inthavong

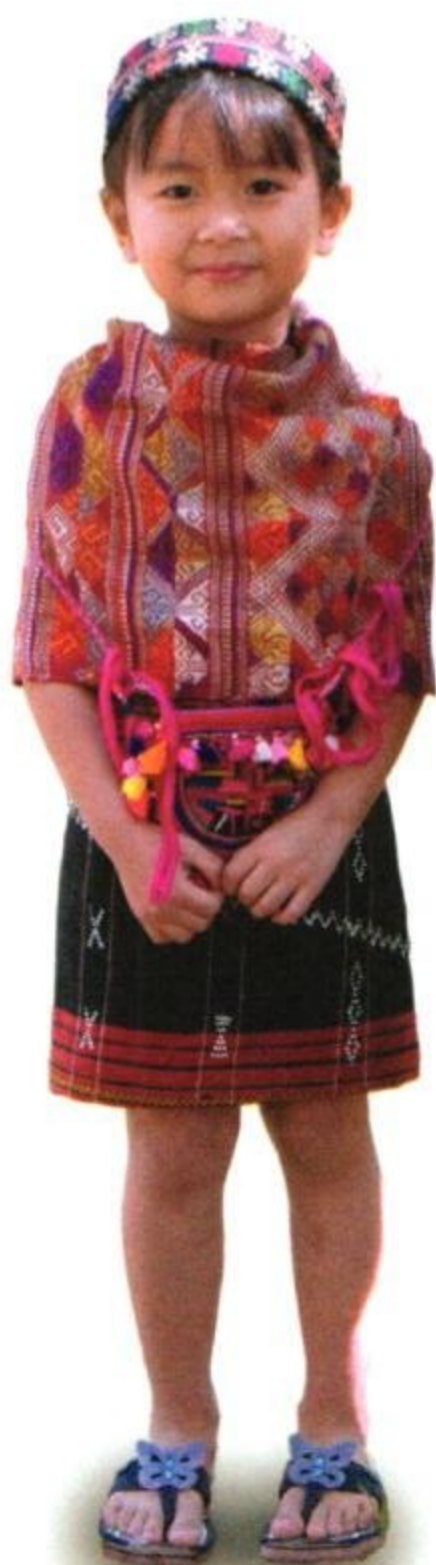


写真・普後 均

アートダイジェスト

目次 CONTENTS

この国には今なお、親から子への“織”の伝承が息づいている。



I. ラオスの伝統布を蘇らせた

My wish is to restore Lao traditional textiles

チャンタソン・インタヴォン
Chanthasone Inthavong

朝市で初めて見た民族の力強く美しい織物

元仏領インドシナ3国の内、一番知られていないのはラオスです。1953年フランスから独立したと同時に、王制派と左派との内戦が始まり、1975年まで続きました。ラオス南部に、北と南ヴェトナムをつなぐホーチミンルートがあるために、1960年代後半から1970年代前半まで、アメリカ軍が投下した爆撃の量は、ヴェトナムよりラオスの方が多く、一人当たり700kgを被ったと言われていています(当時の人口250万人)。現在でも、ヴェトナムとの国境沿いに住む住民が不発弾で苦しんでいます。ヴェトナムの戦争時代、その影に隠れて、ニュースにならなかったのです。ヴェトナム、カンボジアに続き、ラオスも1975年に、650年以上続いた王政が廃止され、社会主義国となりました。

小国のヴェトナムは、大国のアメリカに勝利した事と大量のボートピープルを出した国として有名です。カンボジアも、世界遺産として名高いアンコールワットがあり、あの忌わしい大量虐殺時代で世界から注目を集めました。しかし、ラオスでは、幸か不幸か他の2国に比べると、内戦や2国の戦乱による影響はあったものの、世界を揺るがすニュースにはならず、古都ルアン・シバーンも当時は、世界遺跡にまだ認定されていませんでした。そういう意味で、革命期に来日した私は、親や親戚のことが心配で、TVのニュースを見ても、ラオスのニュースがなくて、苛立っていたことをよく覚えています。

社会主義革命後、ラオスの各地から黒タイ、モン、タイデンなどの民族が首都のヴィエンチャンや大きい町に移動すると同時に、様々な織物も持ち込まれました。人々は、収入の少ない混乱期の最中、食べ物や生活用品を買うために、持参した大事な古布を手放しました。それらの織物は、ヴィエンチャンのラオ族の織物と違い、力強い複雑な紋様と豊富な色彩の糸で織られたきれいな布でした。それらは、とても印象的で、ヴィエンチャンの織物の市場に衝撃を与えたようです。

私は、1974年に留学生として来日。1979年に、初めて一時帰国しました。その時朝市には、余り多くの織物の商品は見られませんでした。今まで見たことのなかったカラフル

次頁:ラオスの伝統的技術、メコン川流域で織られた「シン」と呼ばれる筒スカートの類。左3枚は、富裕層の婦人用で、織の名手と言われるプアン族の作。金糸浮織、シルク緯緋^{よこかすり}など。右2枚は、タイデン族の浮織^{うき}、縫取織^{ぬいとり}など。特に右端は、「ミーター」と呼ばれる青と赤が交互に表われるデザインで有名。(コレクション:ドワンドゥアン) Traditional tube skirts. Collection: Douangdeuane Bounyavong



で複雑な織物にとっても魅せられました。従来のヴィエンチャンの織り物は、シンプルな細かい緋や幅の狭い縦縞のシンに細かい紋様の裾を付けた物が中心でした。初めて見る地方から来た布の美しさに感動して、迷うことなく、数枚買い求めました。いまでも、私の宝です。それが、タイデン族のショールやシンでした。

しかし、その当時ラオス人の殆どが、経済的な余裕がなかったために、きれいな布に気がつかず、それを買うことも出来なかったのです。在ラオスの外国人や、タイの布のバイヤーがメコン川の対岸のノンカイまで来て、麻袋一杯の「ラオスのぼろ切れ」をウソのような安い値で買って行ったのを覚えています。毎日のように、タイ人の商人が、タイから日用製品をラオスに届けに来て、その代わりに、ラオスの織物を何袋も持って帰っていきました。その光景を見て、本当に悲しく、しかし私には買うお金がないので、呆然と見るだけでした。タイのバイヤーは、その中から、よさそうなもの、珍しいものを選び出して、驚くほど高い値で、バンコクの高級ホテル内のブティックで売っていました。ラオスの布がこんなに高く評価されているのかと、うれしい反面、良い布がラオスから流出していくのを見て、悲しくなり、何とかして、これらをラオスに残さないといけなと思いました。これがきっかけで、毎年、一時帰国する度に、朝市の織物屋を歩き回り、珍しい織物がないかと探し、可能な限り少しずつ集めるようになりました。

簡単な織機で織細華麗な布を織るラオ人の根性

ラオスには、様々な民族がいるおかげで、色々な布があって、いくら買っても買い切れないくらい布の種類がありました。布好きな私にとって、今までに見たことのない細かい織り方、きれいな色のコンビネーションの紋様などがあり、神秘的で美しいタイデンのショールに感激したのを今でも良く覚えています。布の一枚一枚が個性豊かで、珍しい物ばかりでした。印象深かったのは、儀式や特別な時にはいたシンミーター(赤い緋と紺の緋を色々な紋様を挟んで交互に織ったもの)。そのしなやかさに感動し、愛しくさえ感じました。そして、タイデン、タイヌア、タイムーイなどの民族の普段着として、よくはかれているシンタームック。これにはとてもシンプルな布から複雑な物まで色々な織り方がありました。

シンタームックの織物は、紋様によって、4枚又は5枚もの箒おさを使う特別な技法です。その布の上に緯緋よこがすりと縫取織ぬいとりおり技法を合わせて、一枚の布に愛情込めて織り上げたものもあります。又、時間を惜しまずに、細かい紋様を何ヵ月も掛けて織る、ショールやシンもあります。もう一つの特長としてあげられるのは、ルー族の根気の要る綴織つづれおりです。

次頁:ラオスの代表的染布。左から黒タイ(タイダム)族やサヴァンナケート県のプアン族の茶綿布。レントン族の藍染綿布。モン族のロウケツ藍染麻布。モン族の生成麻布。 Typical dyeing cloths by Lao e.g..



地方には、様々な民族が異なる技法を使って、平織りをした麻布にロウケツをしてから藍染めをするモン族や、又は藍染めをしてから、その上に刺繍するヤオ族、アププリケをしたりするアカ族などがいます。

ラオスの織機の特長としてあげられるのは、どんなに手の込んだ織物でも、日本のものと比べると、とても単純な構造であることです。昔からどの家でも、高床の家の下に、娘の数だけ、織機があるといわれましたが、組立はいたって単純です。角材や竹4本を柱にし、それに、上と下を4本の竹で固定すれば、簡易な織機が出来上がります。それに経糸を掛け、紋様を記憶するための竹ひごを差し込んだ糸綜統を付けて、緯糸を織り込んで、その上に、色々な色の絹糸で縫取織や綴織の技法を加えて、複雑で、華麗な紋様の織物をつくり出します。一方、織機の原点であるいざり機織も、南部のラオトゥン族の中で広く織られています。この技法は、経糸に紋様が組み込まれていますので、後は平織りをすれば、自由な発想を布に表現することが出来ます。

また、織り込む象徴的な紋様も、様々で、自然の草木花や幾何学的な紋様や、想像の世界の動物である龍、ガルーダ、象ライオン、人間や建造物の寺院、仏塔、舟などがあります。

古い布の多くは、ぼろになっても、どの布もすばらしく、女性たちが家族の衣服や儀式の服装として、時間や愛情を込めて織り上げており、魂が宿っているかのように、愛しく感じられます。いくら見ても飽きることなくしみじみと心が癒されていることが多いのです。

<ラオスと周辺国地図>
Laos and surrounding countries



多くの人々に支えられて 辿って来た道

現在、ラオスでは少数民族の女性の殆どが、学校に行く機会が少ないため、文字も読めません。しかし、古い織物が手元があれば、どんなに織方が難しい物でも、見本にして再現することが出来ます。古い伝統的織物を今後も子孫に継承し、守って行くためには、どうしてもラオス国内に、いろいろな民族の素晴らしい伝統的な織物を保管しておき、いつでも手に取ってみることが出来るような場が必要だと思えるようになりました。

次頁:手のひらサイズのモン族刺繍布をつなぎ合わせて作ったベルト。 Hmong e.g. embroidery belt.



幸いなことに、日本には手仕事の素晴らしさを伝える伝統工芸が、今も残っています。多くの日本のボランティアの方々とお話すうちに、日本各地でラオスの織物や工芸品を展示即売し、その収益をラオスの女性たちの自立に結び付けられないかという、夢が形になり、それを実行しました。

こうして、1998年に設立されたのが「ホアイホン職業訓練センター」です。このセンターは文字通り女性たちが染織や縫製という技術を修得し、職業といえるまでに自立することを目的としています。設立以来約300人以上の女性が、3カ月の染織や縫製の研修を経て、ある人はセンターのスタッフとなり、ある人は郷里に戻って染織技術を伝えるリーダーとなるべく、巣立っていきました。

ホアイホン職業訓練センターはまもなく9年目を迎えます。手紡ぎ、天然染料、手織り、をコンセプトに、ラオスの伝統にこだわり続けてきた姿勢も、どうにか定着してきたような気がいたします。赤子の歩みにも似た、おぼつかない足取りですが、とにもかくにも前に進むことが出来たのは、センター設立前から夢を語り、苦労を共にしてきた「ホアイホン職業訓練センターを応援する会」を初め日本全国のボランティアの方々のおかげと感謝しております。

ラオス古典文学研究家のドワンドゥアンさんが、自宅の一部を開放してラオス伝統染織に関する「ホーテンテン・ギャラリー」を建設して下さったことも、大きな前進になっています。このコレクションの中心は、ある元在ラオス国際機関の外国人職員の方が寄付して下さったものです。これら本物のアンティークの伝統布をより多くの女性が見ることによって、染め、織り、刺繍、デザインなどの手本として役立たせ、今後も伝えられていくことを確信しています。ギャラリー建設には、金子徳次郎、喜久さんを初め、日本のボランティアの方々、世界中に散らばったラオスの方々からも寄付を頂きました。

この本は、以上の経緯を辿った私の原点から、ラオスの染織や刺繍についてまとめたものです。少数民族の古い衣裳を身につけたファッションや、ホアイホン職業訓練センターで織った新しい手織りの布で作ったニューウエアまで、いろいろご紹介しました。もちろん、ラオスの伝統染織についての解説もわかりやすくまとめています。

私は、この本を織物、染色、刺繍、縫製を勉強する人たち、あるいはそのリーダーたち、伝統の布を基本にした、新しいテキスタイルやファッションを志すチャレンジャーたちにお勧めしたく思います。

次頁:ラオス独特の天然染料で染められたシルク糸。上から黒檀の実、玉ネギの皮、ラック虫、ジャックフルーツの木、ラック虫、ココナツヤシの殻、ソリザヤの木など。 Silk threads of natural dyes in Laos.



My wish is to restore Lao traditional textiles

— Chanthasone Inthavong

Laos is a multi-ethnic nation of over 58 culturally distinct minorities. It is the least known of the three countries which comprised the former French colonial territory of Indochina, although it was heavily bombed by the Americans during the Vietnam War.

Until the Socialist Revolution, most Laotians knew little about each other's cultures, but after 1975, many minorities came from the provinces to the cities. People were surprised at the diversity of beautifully woven and embroidered clothes, which charmed not only Laotians but anyone who saw them.

During the '70s and '80s, incomes were so low that many Lao were forced to sell their precious old woven artifacts at very low prices. Ordinary Lao people could not afford to buy them, they went to dealers in the markets, who sold them in large quantities to foreigners who took them back to their countries. This exposure stimulated more demand, and foreign buyers came in ever-increasing numbers, with the result that old pieces of good quality have now become very scarce in Laos itself.

In Laos, we don't have textile catalogues. Without good quality old pieces as samples, the weavers cannot reproduce anything like the precious originals, so they cannot preserve their characteristic culture.

In 1998, I worked with Japanese and Lao women's groups to set up the Houeyhong Vocational Training Center for Women, using our own funds from the sale of Lao weaving, together with grants from JICA. Our aim was to preserve Lao traditional weaving and dyeing and enable women to earn enough to feed and educate their children. At the Center, we provide training in weaving, natural dyeing and tailoring skills to women from the provinces, funded by our own resources and by international organizations in Laos and abroad. We also offer weaving and dyeing courses for foreigners.

To make the Center sustainable, we set up a workshop to produce high-quality woven and tailored goods to sell. With the proceeds, we can fund training courses for disadvantaged and handicapped women who would otherwise have no chance to study and get jobs. Fortunately, we have many supporters, both Laotians and foreigners, who help by teaching and by loaning precious weaving pieces to the Center that can be used as models for reproduction and development of new designs. Many who support the Center's objectives, and who understand the importance of natural and handmade products, are cooperating in promoting sales in Laos and many other countries.

In this book, I will introduce the works of the trained weavers and tailors who are using traditional weaving and natural dyeing techniques to make products with new taste in colour and design, as well as the traditional clothing of the various minorities of Laos on which they are based.

In conclusion, I would like to thank the editor, Ms.Hotta, all my friends who volunteered to be models, and the staffs of the Center who have worked so hard to make the textiles shown in this book. And special thanks to Ms. Douangdeuane for allowing me to use her gallery and precious collections for the photos.

Enjoying Lao style Ⅱ. ラオ・スタイルを楽しむ



▶ ヴィエンチャンの街中で。縞シルク・ノースリーブ・ドレス。黒檀の実、藍、ソリザヤの木などの染め。すべて天然染料。ベルトにタイムーイ族のティーンシン（スカート裾布）を生かして。Silk dress Dye: Thai ebony fruit, Indigo leaf, Indian trumpet bark etc. Belt/Tai Moei e.g..

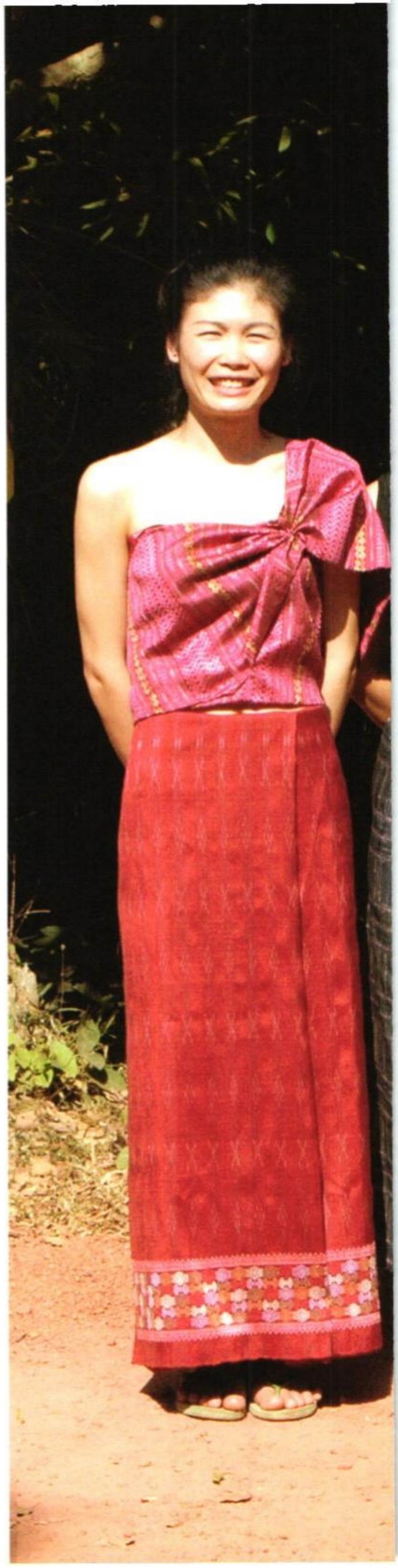
「パー・ビアン」と「シン」は、
ラオスの装いの基本です。

"Pha biang" and "Sin" are the base of Lao style

パー・ビアン (pha biang) は、寺詣りや祭礼、結婚式などで肩にかける美しいショールのことです。シン (sin) は、少女から老女までラオスの多くの女性が腰にはく筒スカートです。英語で、チューブスカート (tube skirt) とも言い、都市部だけでなく、山間の小さな集落の女たちもはいています。上着やパンツももちろん付けますが、装いを印象づけるのは、やはりパー・ビアンとシンの組合せです。その文様や色彩は、地方や民族によって異なり各々の特長を表しています。

近年は、都市の郊外の工房でこの特色を上手にアレンジした新しい布が、織られるようになりました。

次頁：パー・ビアン(ショール)とシンのアンサンブルは、ラオスの女性を最も美しく見せてくれる。(ヴィエンチャン郊外、ホアイホン職業訓練センターにて) 左から、タイデン族の「緋+縫取織」。タイデン族のタームック織。ルー族の「綴織+浮織」。ルー族の「綴織+浮織」。タイデン族の「緋+縫取織+浮織」 Next P. : The staff members of HTW (Houeyhong Vocational Training center for Women). They wear Pha biang and Sin set they made.







古布で遊ぶ パーティで出会った人たちのおしゃれ

Enjoying to wear old Lao textiles in the party

ラオス古典文学研究家のドワンドゥアン・ブンニャウォンさんは、私邸の一隅にラオス伝統染織関係の「ホーテンテン・ギャラリー」を開設するなど、ラオス伝統染織研究の第一人者でもあります。2005年には福岡市美術館の福岡アジア賞を受賞されました。私たちは、もう随分長いおつきあいをさせて頂いておりますが、'06年の新年、日本から里帰りした私のために、友人や知人、親しい人たちを招いてパーティを開いて下さいました。

お客様の条件は、私のお茶目な提案で「チャンタソン民族衣裳コレクションを、ご自分なりに装って頂くこと」。好奇心いっぱいのお客様は、思い思いのコーディネートに趣向を凝らしました。



次頁：私邸のテラスや庭で語らうドワンドゥアンさん^{おやこ}母娘。次女のプイさん(左)は、モン族の古刺繍のスカート^{おやこ}を自らのデザインでキュートなフレアースカートに。長女のプッさん(右)は、細布を重ねたステッチングが魅力的なルー族やカム族のブラウスを、シンやロングスカートにあわせて。ドワンドゥアンさんは、ハイネックシルクブラウスと銀糸シルクのシンを基本に、深紅のラク虫染シルクショールを肩から掛けて、シックな装いにも華やかさを出している。

Next P. from left: Embroidery skirt/Hmong e.g.. Silver thread Tiin sin/Phuan e.g.. Blouse and indigo cotton long skirt/Lue e.g..





ヴィエンチャン郊外、ナムグム川のほとりにあるドワンドゥアン邸の広い庭で開かれた、新年のパーティ。友人、知人、親しい人たちに混じって、オーストラリア人の母娘や日本人のエトランジェも。総勢27人がドレスアップしたところで、記念撮影。はい、ポーズ。





上左:ダラ・カンラヤーさん。ラオス古典文化保存研究家。作家。1994年日本経済新聞アジア賞受賞の親日家。ジャックフルーツの木染の真っ黄色が、よくお似合いだ。Above left: Silk two pieces dress/Jack fruit wood dye.

上右:ドワンドゥアンさんの親戚のオーストラリア婦人。黒タイ族の上着にルー族のシン。Above right: Blouse/Tai Dam e.g.. Sin/Lue e.g..



下左:トゥイノーイさん。ラオトゥン族の白いビーズが織り込まれたシンに黒タイ族の頭巾。黒のティシャツでモダンに。Below left:Back tension loom Sin(tube skirt)/Lao Theung e.g..

下右:NPOラオス駐在スタッフの赤井さん母娘。サリちゃんは、タイムーイ族の上着にモン族のプリーツスカート。使い慣れたモン族のロウケツ染帽子とのマッチングが、可愛らしい。赤井さんは、天然染料のシルクフレアー巻スカート。Below right, from left: Blouse/Tai Moei e.g.. Skirt/Hmong e.g.. Silk check skirt/Natural dye.



オーストラリア人の母娘。観光と伝統の布を見るのが旅の目的とか。娘さんは、藍絰シルクのシンを上下逆にして、裾の縫取織を見せる奇抜な発想の巻スカート。アカ族のベルトをペンダントにしている。お母さんは、藍絰シルクの襟付のワンピース。シーズンを通して使える、おしゃれ着。ココナツヤシとラック虫染の浮織シルクショールがポイントに。 From left: Skirt/Ikat weft + discontinuous supplementary weft. One piece dress/ Indigo ikat weft.



著者の弟のチャントヴィポーンさん家族と親戚の小さな女の子たち。夫人は、金糸が織り込まれている伝統のショールと儀式用ブラウスの正装。娘さんは、刺繍いっぱいのヤオ族パンツにモン族ベルト。ヴィポーンさんは、藍染コットン布で作った日本スタイルの作務衣。2人の女の子は、力強い文様のモン族刺繍のベストと、ラオトゥン族のスカート。Above left: Lao traditional formal costume. Above right, daughter: Embroidered pants/Yao e.g., father: Samue/Indigo dyed cotton. Below from left: Cap/Yao e.g., Vest/Hmong e.g., etc.

次頁：ダラさんの長男一家。ご主人は、ヤオ族男性衣裳。夫人は、新作のラック虫染緋の柔らかいシンやショールを重ねてギャザースカートに。パーティ参加者の中、なかなかのアイデア賞物。2人の小さなレディたちは、タイムーイ族(左)やルー族(右)の貴重なアンティークのシンを付けて、恥ずかしそう。Next P.father: Yao e.g. costume. mother: Gathered skirt with pha biang. daughter: Left, Tai Moei e.g. sin. Right, Lue e.g. sin.

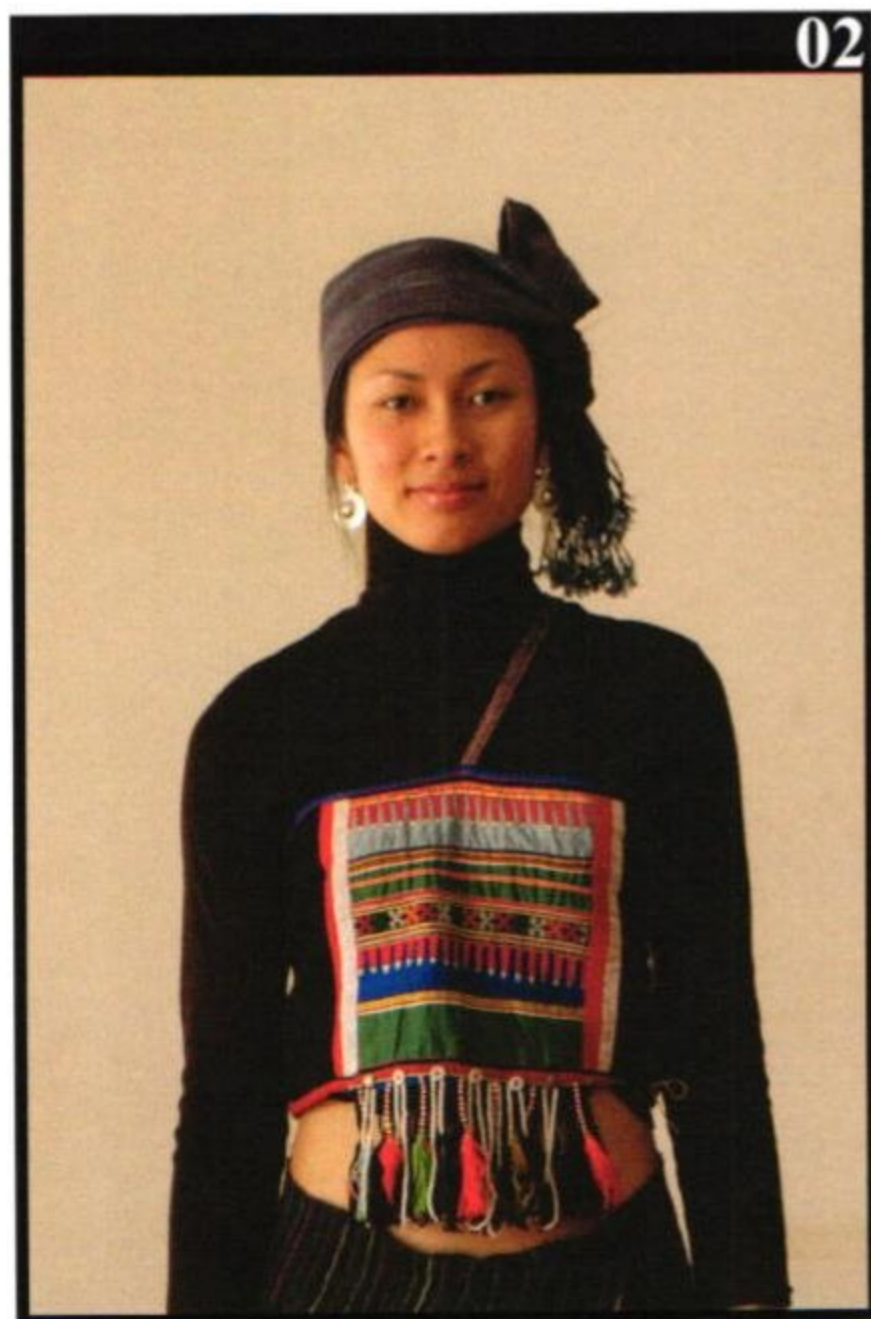


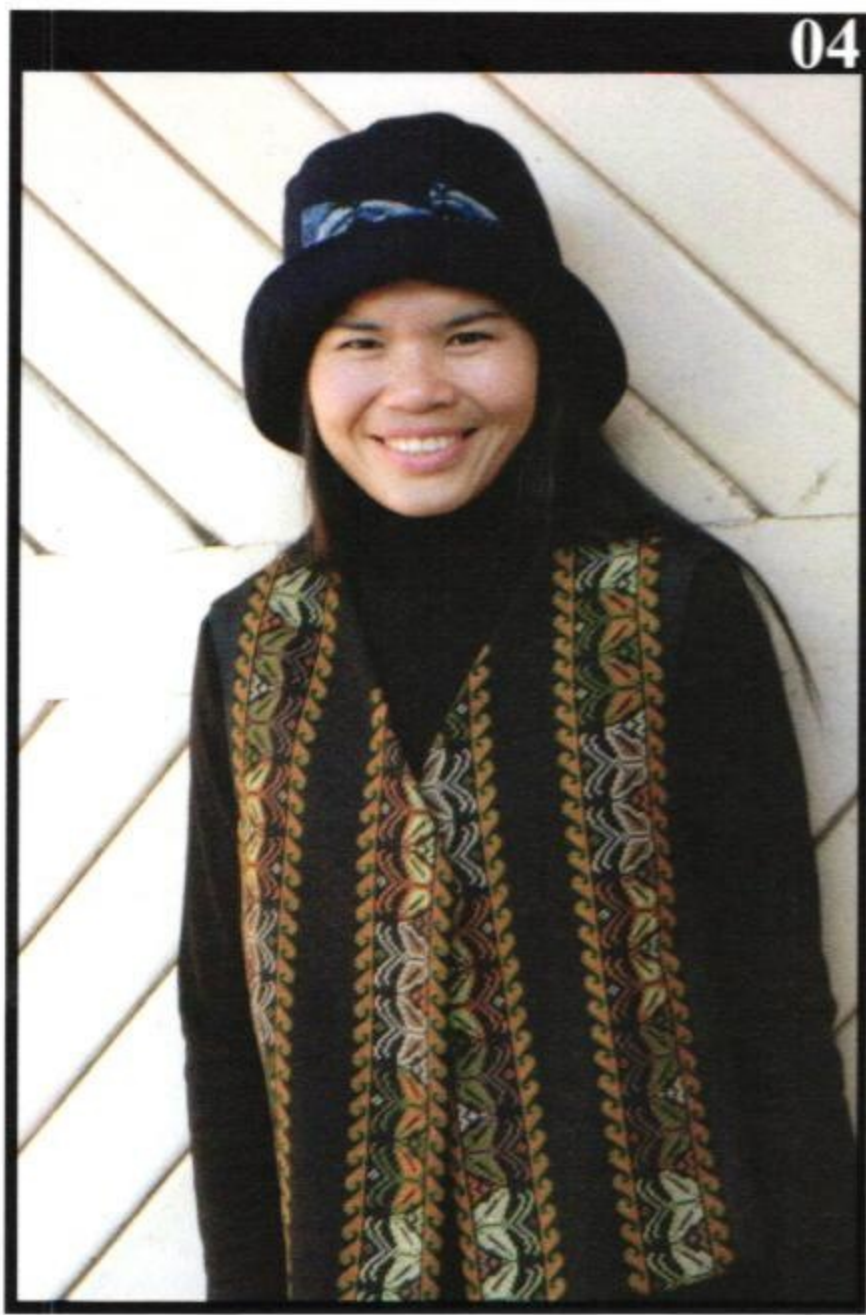
若い女性の伝統布を生かした アイデアおしゃれ

Young women wearing traditional
clothes in their own fashion

深い森の国ラオスには、世界のファッション情報は、そんなに早くは届きません。しかしそのスローさゆえに、若い女性のおしゃれには、一人ひとり違う手作りの味わいがあり、楽しいアイデアがいっぱいです。

根っからのヴィエンチャンっ子のダルニーさんと、私が関わっているホアイホン職業訓練センターの若いスタッフをご紹介します。





01: ラオトゥン族の上着にレンテン族の男パンツ。
ウエストの白布と金のベルトで、ちょっとドッキリ
効果! Blouse/Lao Theung e.g.. Men's pants/Lenten e.g..

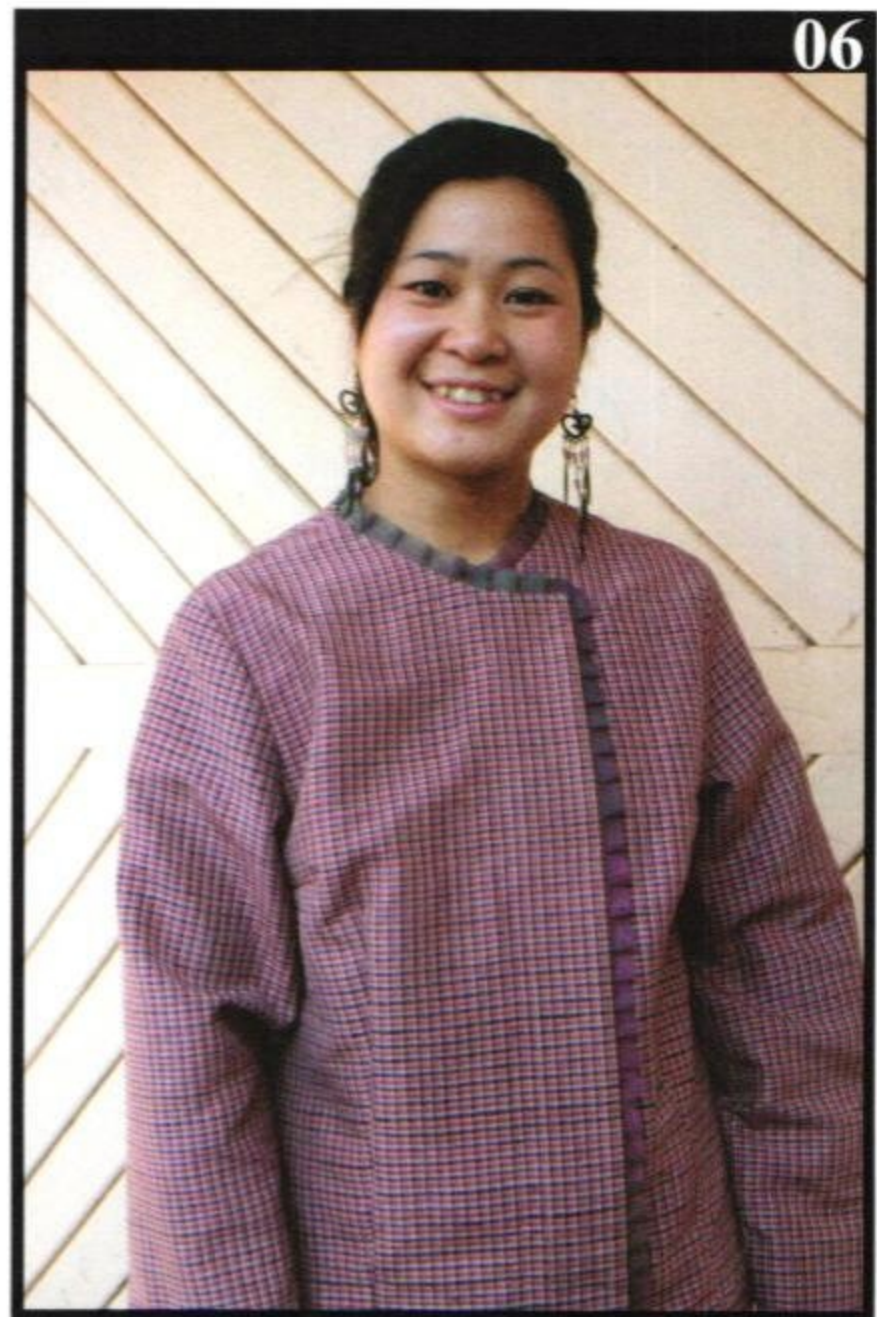
02: 黒いTシャツやセーターの上に、アカ族の胸当
てをタンクトップ風に。 Tank top/Akha e.g..

03: 伝統織のシンで、ギャザースカートを。古いミー
ター縞のシンでターバンを。 Gathered skirt/New sin.
Turban/Old Mee tar Ikat weft.

04: 藍布をベースにヤオ族クロスステッチの布を利用
したベストと、端切れを使った帽子。どんな端
切れもすてないで袋物などを作るノーラーさん。
Vest/Yao e.g. embroidery

05: 1枚のタイデン族藍縞と4枚の無地藍染布
を、縫い合わせただけの余裕たっぷりのワンピース。
藍シルクスカーフをパレオ風に締めると、小柄
なノックさんにもよく似合います。 One piece
dress/Tai Daeng e.g.. Indigo cotton Ikat weft.

06: シルクオーガンジーを首や胸のフリルにしたシル
クブラウス。難しいフリル付けの名人のヴォーンさ
ん。 Silk frill blouse/Natural dye check design.Silk organdy.



住まいの中の布づかい

Decorating with Lao traditional textiles

日本でも、部屋にラオスの織物を掛けて楽しむインテリアの例を、雑誌などで見かけるようになりました。見栄えのする民族衣裳のパー・ピアンやシンが、そのままタペストリーやテーブルクロスに使えて部屋の雰囲気を変えてくれるからです。ラオスは、仏教(小乗仏教)の国。布には、寺院、「ナガ」と呼ばれる龍、象や鳥の守護神、「タントラ」の菱形、などの力強い紋様が沢山織り込まれています。

下：ランチのテーブル。ナプキンは、おなじみの象紋様の浮織。ディッシュは、川海苔と唐辛子味噌、籠に赤餅米、ラオサラダなど。

Tablecloth and luncheon mat/Continuous supplementary weft.



次頁：ヴィエンチャンの旧市街。100年以上前のフランス住宅を改造したカフェ兼住宅。手前はカフェ。中庭を挟んで奥に住宅がある。中庭には取り外し可能な布掛けがありその日は、タイデン族の豪華なパー・ピアン(ショール)が掛けてあった。奥に通じる出入口には赤い縁取りのコットン浮織のブランケットが2枚、暖簾のように掛けてある。ラオスならではの“布の扉”だ。中庭のコーナーには布好きの主人のコレクションがメ



籠にさりげなく飾られている。

Tapestry/Tai Daeng e.g.. Door curtain/Lue e.g..
Cotton blanket etc.

(撮影協力: CAFÉ CROISSANT D'OR
/VIENTIANE LAOS)

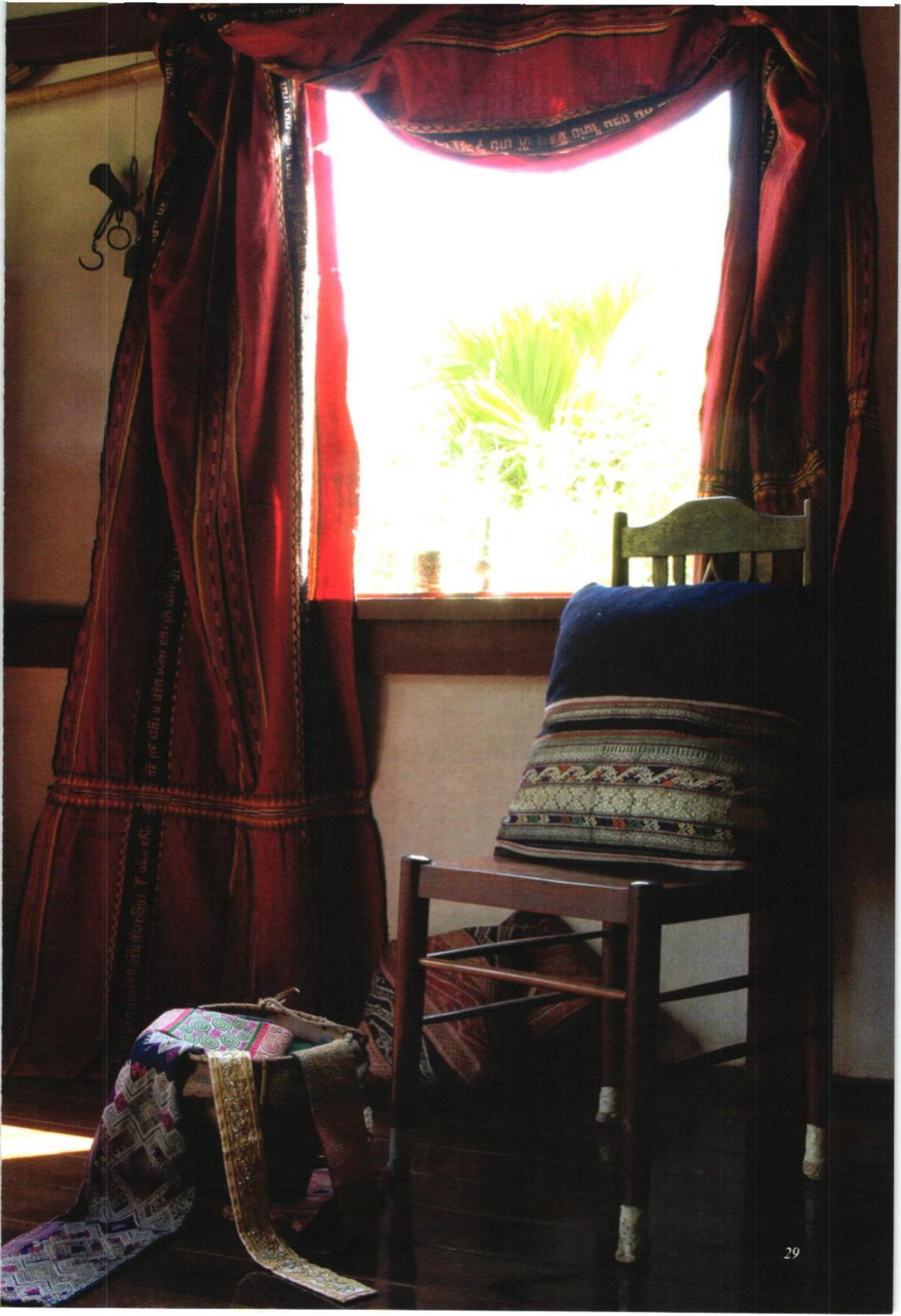




上:ドワンドゥアン邸の住宅は、伝統の木造建築で高床式。二つのギャラリー、緑の庭や林、畑、池などが点在する広い敷地に別荘のような佇まいで建てられている。天気の良い日は、庭に机を出して仕事をするドワンドゥアンさん。テーブルクロスは、ラオスの北部ウドムサイ県、コットン浮織ブランケットとして織られたもの。「洗濯が利いて、物を置いた時の感触もソフトで、トレ・ピアン！」とドワンドゥアンさん。 Above:Tablecloth/Cotton blanket in Oudomxay pref..

下:昼食のテーブル。藍コットンナプキン、煮藍シルクランチョンマット、ベトナム染付皿……様々な色調のブルーが、青パパイヤサラダをおいしそうにみせる。 Below:Luncheon mat/Silk indigo boiled dye. Napkin/Indigo dyed cotton.

次頁:ダイニングの一角。ラオトゥン族のカーテンをそのまま窓のカーテンに。クッションカバーには、銀糸入りアンティークのシンを利用。籠には、著者のコレクションの可愛い刺繍布がいっぱい。貸したり、借ったり。ラオスの古布が大好きな、ドワンドゥアンさんと著者のほほえましい仲がうかがえる。 Curtain/Lao Theung e.g. cotton curtain. Cushion/Tai Dam e.g. antique sin.





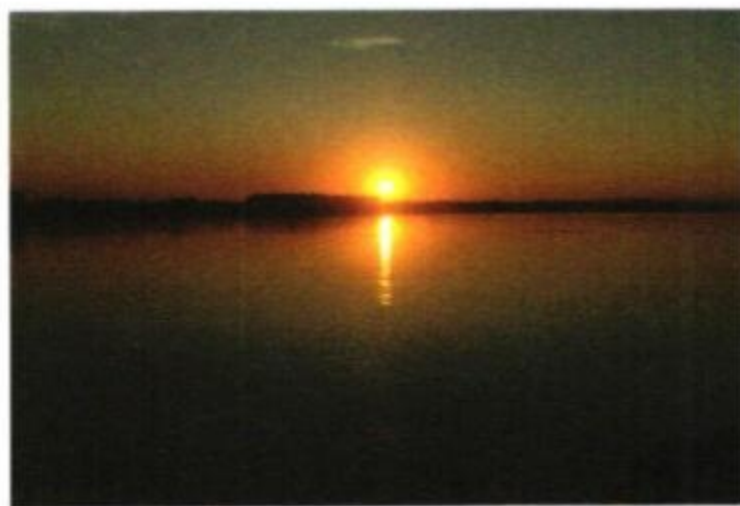
✽ ✽
 古都の日本人エトランジェ——チャンタソンさんの新作ウェアを装う

A Japanese etranger in ancient cities Vientiane and Luang Phabang, wearing Ms.Chanthasone's new designed garments

ヴィエンチャン市の南、メコン川にそって住宅やレストランが並ぶ沿道に、^{はた おりき}機織機を見かけることがあります。観光用の飾りかと思っていたら、女たちの内職用の織機でした。町でも田舎でも女たちはどこでも布を織っています。やっぱり、ラオスは“手織りの国”と、再認識させられます。

そんなラオスの織物に憧れて、ラオスを初めて訪れたという大橋ひろ美さん(「ギャラリーとーく」オーナー、姫路市)と、ヴィエンチャン、ルアンパバーンの古都を旅しました。そして、私が楽しみで作った新作ウェアを、着て頂きました。

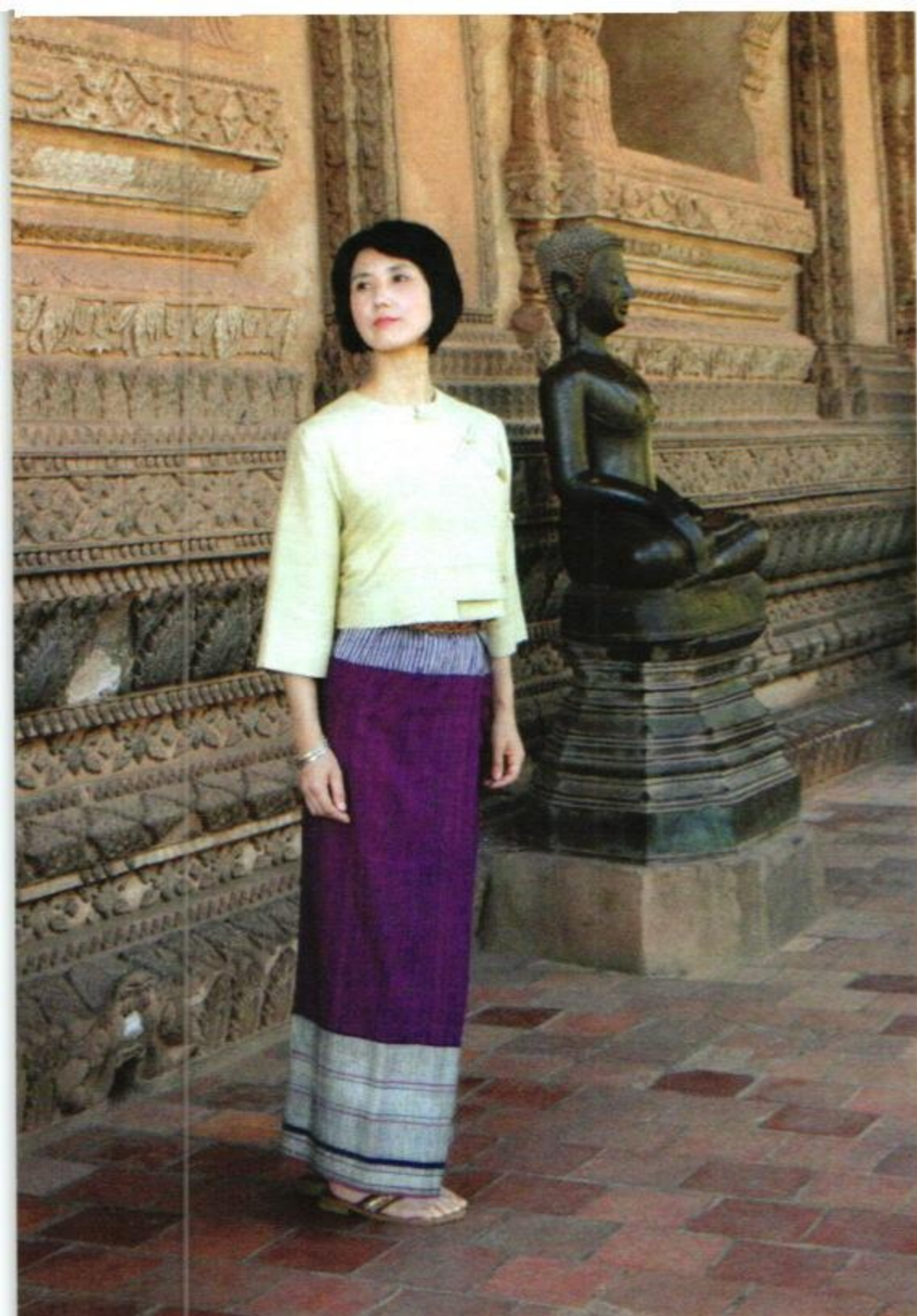
上：メコン川沿いのレストランにて。藍シルクオーガンジーのショールを羽織る。「このシルクの張り、日本のお坊さんの夏の紗衣しゃいに似てますね〜」と大橋さん。Shawl/Indigo silk organdy.



左：メコン川の夕映え。ヴィエンチャンからタイ側を望む。Sun set at the Mekong river.

ジャックフルーツ染シルクワンピースに、ラック虫染シルクオーガンジー浮織ショール。「天然染料のピュアーな色彩は、人の心を豊かに幸せにしてくれます」と大橋さん。 Silk one piece dress/Jack fruit wood dye. Shawl/Lac dyed silk organdy.





上:ヴィエンチャン、ワット・ホーパケオ(エメラルド寺院)にて。マリーゴールド染(ミョウバン媒染)山繭シルクルー族風ブラウスと、裾に銀糸を織り込んだプアン族のアンティーク・シンのシックな組合せ。「シンのはき心地は、和服の裾さばきと同じ。しゃきつとして、気持ちいいわ〜」と大橋さん。 Above: Wild silk blouse/Marigold flower alum dye, Antique sin/Phuan e.g..

左下:ラック虫(赤)、ソリザヤの木(薄緑)、藍、黒檀の実など多色系で織ったチュニックシルクコート。大きなポケットが、チャームング。ベルトは、ラオトゥン族の組紐。 Below:Tunic silk coat/Natural dye. check design weaving. Belt/Lao Theung e.g.

下:ルアンパバーンのシンボル、ワット・シェントーン。 Wat Xiengthong, Luangphrabang

次頁:世界遺産、古都ルアンパバーン、ワット・シェントーンにて。タームック織の一枚(約110×180cm)を巻スカートやショールに。手の込んだ美しい布は、できるだけそのまま身につけたい。藍、煮藍、マンゴスチンなどの染。緋・経緯浮織が一枚に入る高技術の織物。 Next P.:Wraparound silk skirt/Taamuk ikat. A piece of un-sawn cloth can be used as skirt, shawl etc.







上:ルアンパバーン、ワット・シェントーンにて。ピンクのモザイク壁に、ラック虫染緋シルクブラウスが、よく映えている。きれいな色で作るブラウスは、シンプルデザインがいい。Above:Silk blouse/Lac dyed ikat weft.



左:煮藍染、緋シルク襟付ポロワンピース。「ラオスの緋の紋様は、日本の銘仙めいせんにどことなく似ています。気軽に普段着やちょっとしたお出かけ着として着られることも」と大橋さん。Left:Silk ikat one piece dress/Indigo leaf boiled dye.

下:日本の大学に留学中のダルニーさんに出会って、意気投合。大橋さんは、藍、黒檀、煮藍染めの縞シルクスタンドカラーコートに、ココナツヤシ染の浮織ショール。ダルニーさんは、黒檀染シルク丸衿コートに、純白のシルクショール。「ラオスのシルクショールは、洋服にも和服にもオーケーね!」と、日ラ友好ムード。



次頁:メコン川を船が行き交う、ルアンパバーンにて。ホアイホン職業訓練センターのマネジャーで、草木染に詳しいナノさんから説明を受ける大橋さん。染織の原料や媒染が、すぐ手の届く処つれ せん し うきにあることに驚かされる。大橋さんは、綴、金糸浮織、縫取織などで織られた豪華なシルクワンピース。ナノさんは、ルー族のオールドのシン。Next P. from left: Sin/Lue e.g., Silk one piece dress/Tapestry weaving. Continuous and discontinuous supplementary weft.



和装にもマッチするラオスの織物

Lao textiles match with Kimono or Japanese Clothes

「ラオスの布を見ていると、なぜか日本の着物のイメージが湧いてきます」。和服党を自認する大橋ひろ美さんは、旅行バッグの中に絹の着物を二枚しのばせていました。初めてのラオスの旅にその予感、的中。大橋さんにパー・ビアン(伝統のショール)や少数民族の古刺繍などを使って、着物を着て頂きました。見事な“和とラオスのマッチング”をご覧ください。

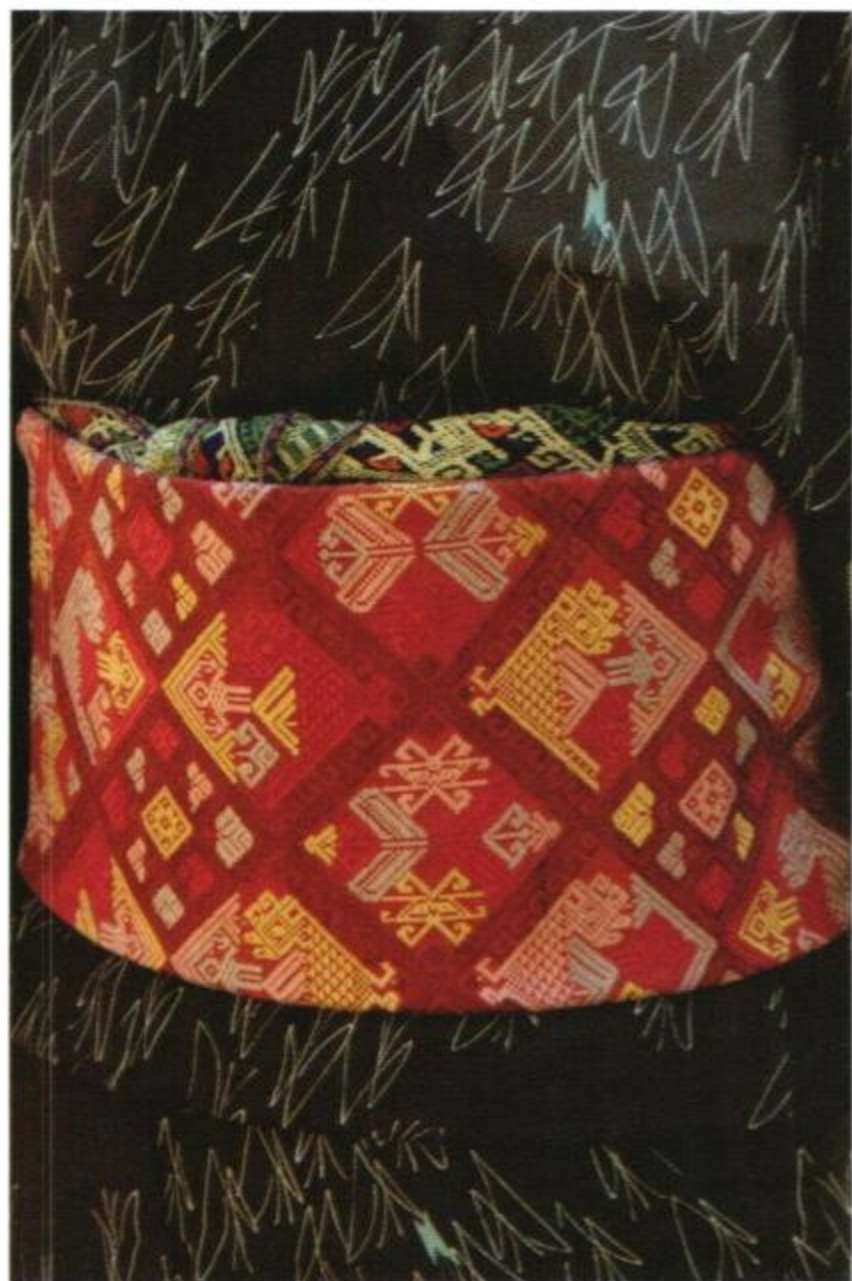
右:パー・ビアン風新作ショール(シルク、縫取織、ラック虫染)。42×224cmと長いので、帯としても使える。コツは帯板おびいたを使うこと。Pha biang silk shawl.



パー・ビアンで、即席の帯を Improvised Obi(sash) with Pha biang

〈一本のパー・ビアンで〉 With one Pha biang shawl

写真左頁のパー・ビアンを使って帯を。帯板を芯おびいた(前)にして、ショール(ラック虫染、縫取織、)でくるんで、背中で結ぶ。結びは、自由に自分流に形づける。前で結んでから後に回してもよい。銀糸入りオールドのティーンシン(シンの裾)を帯揚げ(Ornament cloth) 風に結ぶ。

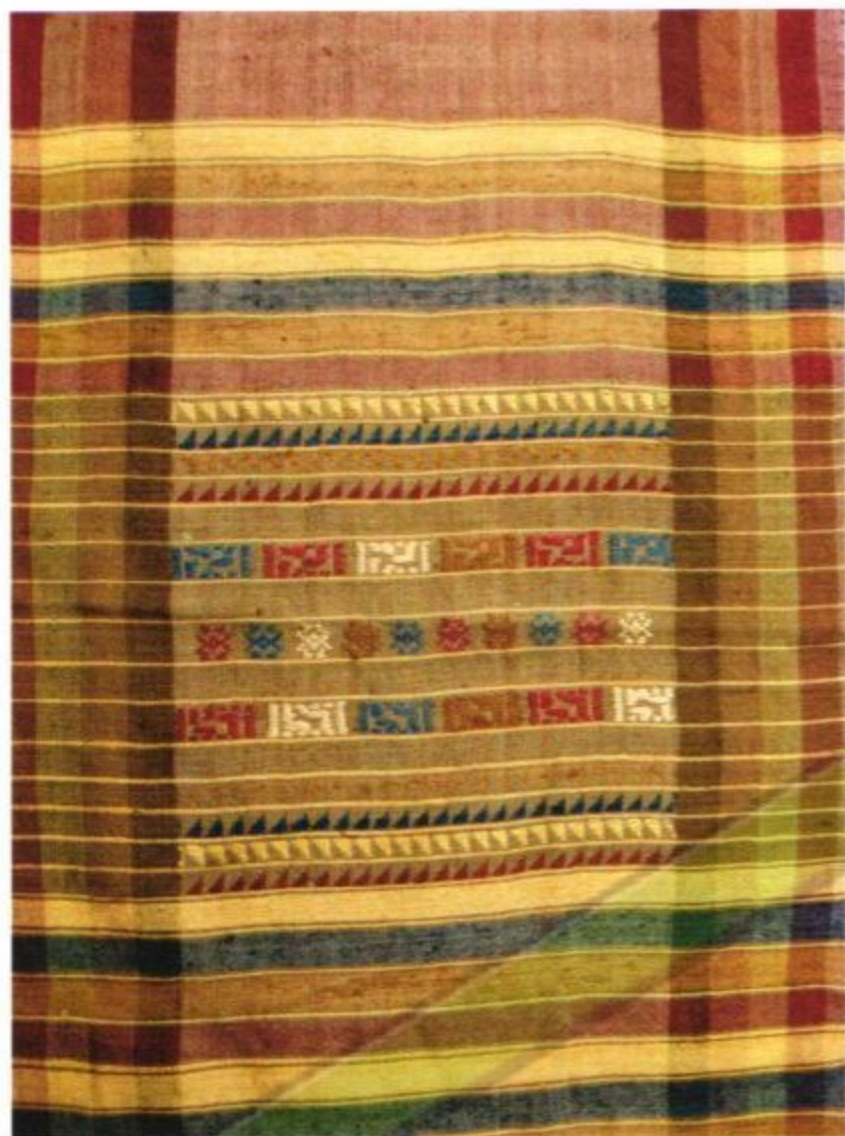


〈二本のパー・ビアンで〉 With two Pha biang shawls

二本のパー・ビアン風ショール(ラック虫染縫取織ショールと、藍染縫取織浮織ショール)を使って締めたアイデア帯。背中の帯が多彩色になって面白い。着物は、藍染紺。 Two Pha biang silk shawls.



半襟の楽しみ Enjoying Han-eri(collar ornament)



上：細かな縞や浮織のシルクショール
(部分)を半襟にして楽しむ。

Collar ornament, Han-eri with silk short shawl.

下：モン族の刺繍ベルトを半襟にする。

Han-eri with Hmong e.g. embroidery belt.

次頁：白の絹の着物に、パー・ピアン風
ショールを巻いて作った帯。ショールを掛け
てカジュアルに。ルアン・ナーンの寺院に
て。





帯を仕立てる Making Obi(sash)

〈パー・ピアンショール地の帯〉 Pha biang cloth Obi



上:バザールで買ったタイデン族のシルク縫取織パーピアン。日本に戻ってセパレートの「付け帯」に仕立てた。伝統のナガ(龍)の紋様は、ラオスの代表的文様。 Above:Silk shawl cloth Obi/Discontinuous supplementary weft.

下:茶道の袋物。草木染シルクの浮織や縫取織布で作った数寄屋袋、懐紙入、楊枝入。 Below:Tea ceremony goods miscellany.

＜紙布の帯＞ Paper cloth Obi

右:メコン川流域のコウゾを原料にした紙を使ってコヨリ糸を作り、織りあげたもの。日本の紙布織作家の草川メイさんが、ホアイホン職業訓練センターに技術を伝授。日本の伝統の紙布織技術と、ラオスの伝統的紋様がドッキングして新しい表情の帯が出来上がった。ピンクのコヨリ糸はラック虫染。仕立ては、名古屋帯に向いている。洗えるのが、嬉しい。 Right: Paper strings/Lac dye.

下:白紙の帯と、黒檀染紙布の帯。拡大写真は、黒檀染帯のコヨリ織部分。
Below right: Paper strings/Ebony fruit dye.



ラオスの布で日本風ウェアを

Enjoying Japanese fashioned garments with
Lao textiles

ラオスの布は、仏教の儀式やお祭りに欠かせないように、色・織柄・サイズなど、伝統の硬質なイメージがあり、今の時代の服に仕立てるのが難しいと、言われることがあります。しかしその布の強さこそ、ラオスの布の一番の魅力でもあります。主張性のあるその布は、時に人を惹きつけ、少しの工夫を加えるだけで、今の日本のファッションや暮らしに新鮮な風を吹き込んでくれるからです。

ちょっとクセのあるラオスの布。だからこそ、一枚の布をよく見ることから始めましょう。

(製作デザイン: フラド)

上: ヤオ族のクロスステッチ刺繍のロングベスト。刺繍に1カ月かかるヤオ族の労作だから、あまり切らないデザインにした。 Long vest/Yao e.g. embroidery.

中: ラック虫染のシルクシン(筒スカート)地で作ったカクテルドレスに、ラック虫染シルクオーガンジーを羽織る。 Silk cocktail dress/Lac dye.

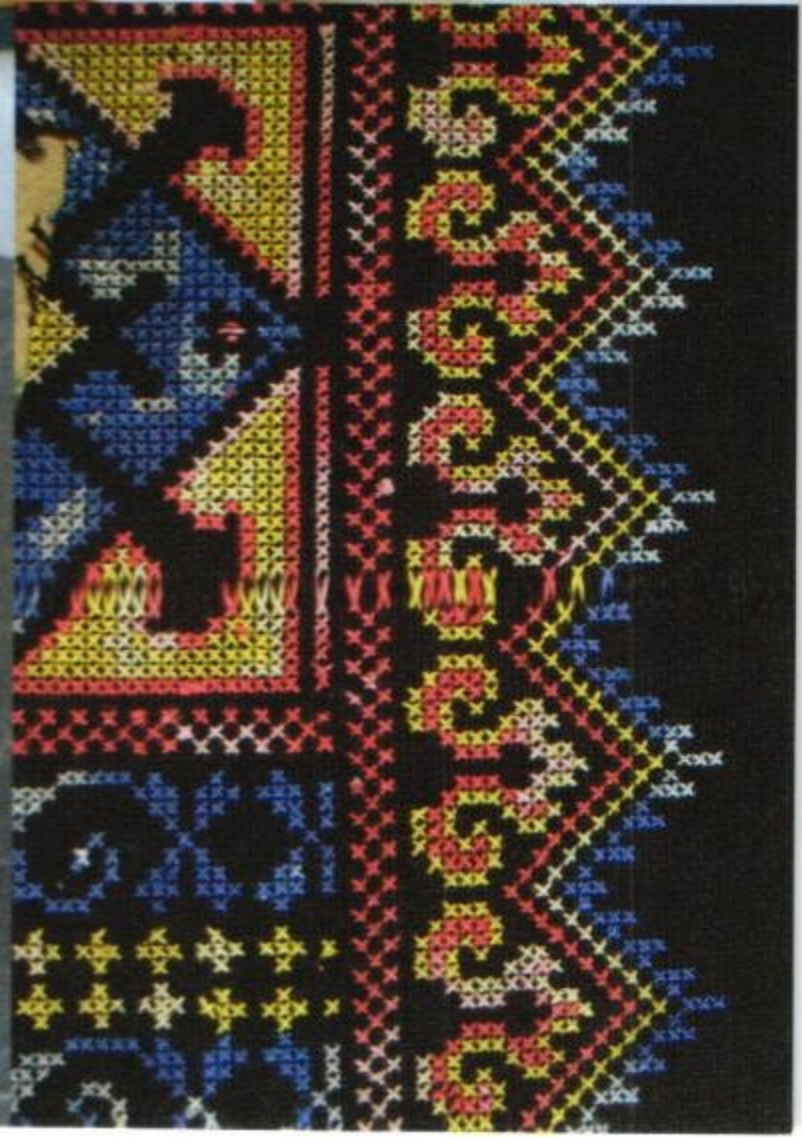
下: 草木染のざっくりしたコットンショールで作ったジャケット。ジャックフルーツ染フリルシルクブラウス。紫と黄色、強い色のコントラストで若々しく。 Jacket/Cotton natural dye.

次頁: ヤオ族クロス刺繍シルクコート。刺繍を片方の身頃だけにして、軽やかに見せる。刺繍は、サイニャブリー県のヤオ族やルー族の作。1カ月以上かかるという。

Next P.: Coat/Yao e.g. embroidery.

拡大図: コートの刺繍の拡大。クロスステッチが全面施されている。







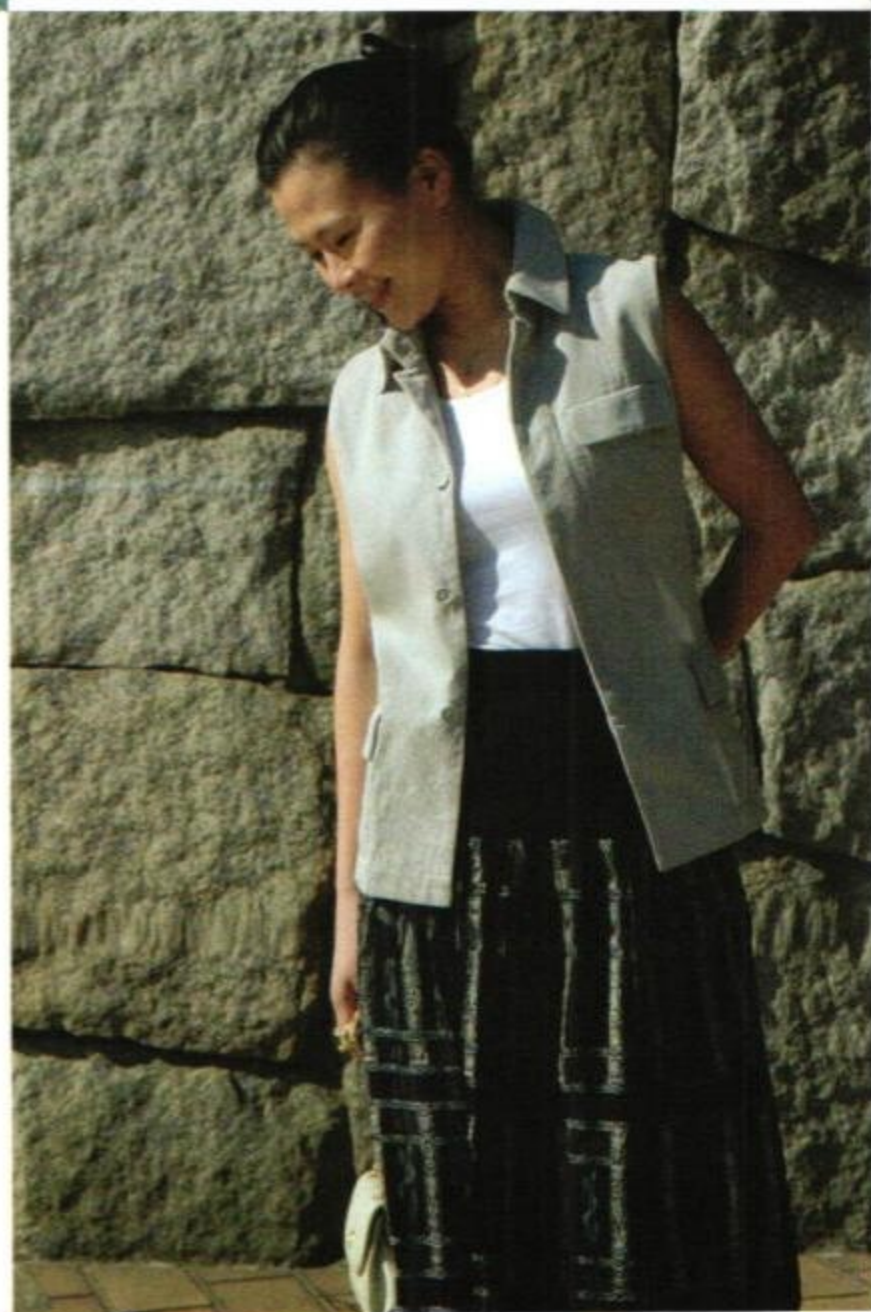
上:シン(筒スカート)用の生地を殆どそのまま生かしたコットン &シルクブラウス。布の印象の強さを白いソパツで爽やかに。

Above: Cotton & silk blouse/Sin Xiengkhuang dist..

下:タイデン族のタームック織のシンで作ったヨーク・ギャザースカート。スカート丈を足すためと、腰に張りをもたせないための、黒いコットンのヨークが、タームック織の繊細なテクスチャーを生かしている。 Below:Yoke gathered skirt/Taamuk. Tai Deang e.g..

次頁:浮織シルクピンタックブラウス。細かい横縞のシルク布を縦にピンタックすると効果的な陰影が出てくる。ラオスの複雑な織りにぴったりだ。草木染。 Next P. :Silk pin tack blouse/Continuous supplementary weft and Ikat weft.

拡大図:ピンタックブラウスの拡大。シルク、緋、浮織。





ラオスの古布を使ったジュエリー

Ms. Junko Tanabe's jewelries using Lao textiles

田部恂子さんのジュエリーを初めて見た時、驚きました。心が晴れず、何も手が着かない時、そっと箱から出して眺めている、いつもの小さな刺繍や織物の端切れが美しいネックレスになっていたからです。

パー・ビアンパー・ビアンの端切れ、シンの裾かやざり、蚊帳飾切れ、農民の木綿など……細かい端切れが繊細にはぎ合わされて鎖の代わりをし、トップのシルバー彫金や石と清々しくコーディネートされていました。



東シナ半島の歴史を語る古い銅鼓の上に田部恂子創作ジュエリーを飾る。左：金糸浮織シン+フローライト・シルバー。／中央：蚊帳かざり+コハク・シルバー。／右：コットン緋シン+道教仏・シルバー。

III. 珠玉の布 織・染・刺繍 The gem of Lao clothes

浮織、縫取織のりとり——都人の華麗「金銀系浮織ティーン・シン」みやこびと

Golden silver Tiin sin skirt

この美しい布は、20世紀初め、ヴィエンチャンの裕福な家の女性の間で流行したシン（筒スカート）の裾の部分「ティーン・シン」です。本物の金銀箔のモール糸やフランス製の高級合成糸を浮織や縫取織にしています。紋様は鳥、睡蓮、唐草、櫛など。

ラオスは、当時フランス領下におり、ラオス人本来の自給自足のライフスタイルは崩れ、洋風化が浸透していった時期です。そんな目まぐるしい変化の中でも、ラオスの女性たちは伝統の装いを決して捨てませんでした。この贅沢なティーン・シンから、女たちの凛とした姿勢が伝わってきます。

20世紀初め、フアン族の金銀系浮織、シルク、Early 20c. Phuan silk. Bottom of sin (Tiin sin) made of golden silver thread.

絹——誇り高き職人「プアン族の緯絹」

Proud ikats of Phuan e.g.

プアン族は、昔のプアン王国の人々で、ラオスの中東部シエンクアン周辺に住んでいました。ベトナムと国を接しているため、交易の場として栄えましたが、それは外からの戦乱に巻き込まれることも意味しており、特にこの一世紀は、フランスの侵入、ベトナム戦争によって、多くの人々が、ヴィエンチャン、ルアンパバーン、サムヌア、遠くはタイへ移住させられました。そんな中でも、彼らは織の技術を捨てず、むしろ、その土地に合わせながら素晴らしい布を織り上げました。絹だけでなく浮織、縫取織の技にも長けていて、特に都会の富裕層の女性の晴着用銀系入りの布を多く手がけました。

下：20世紀半ば、プアン族、シン、緯絹、シルク。Mid-20c. Phuan e.g., Silk ikat sin. Silver thread, continuous supplementary weft.

縫取織——タイデン族「シャーマンのパー・ビアン」

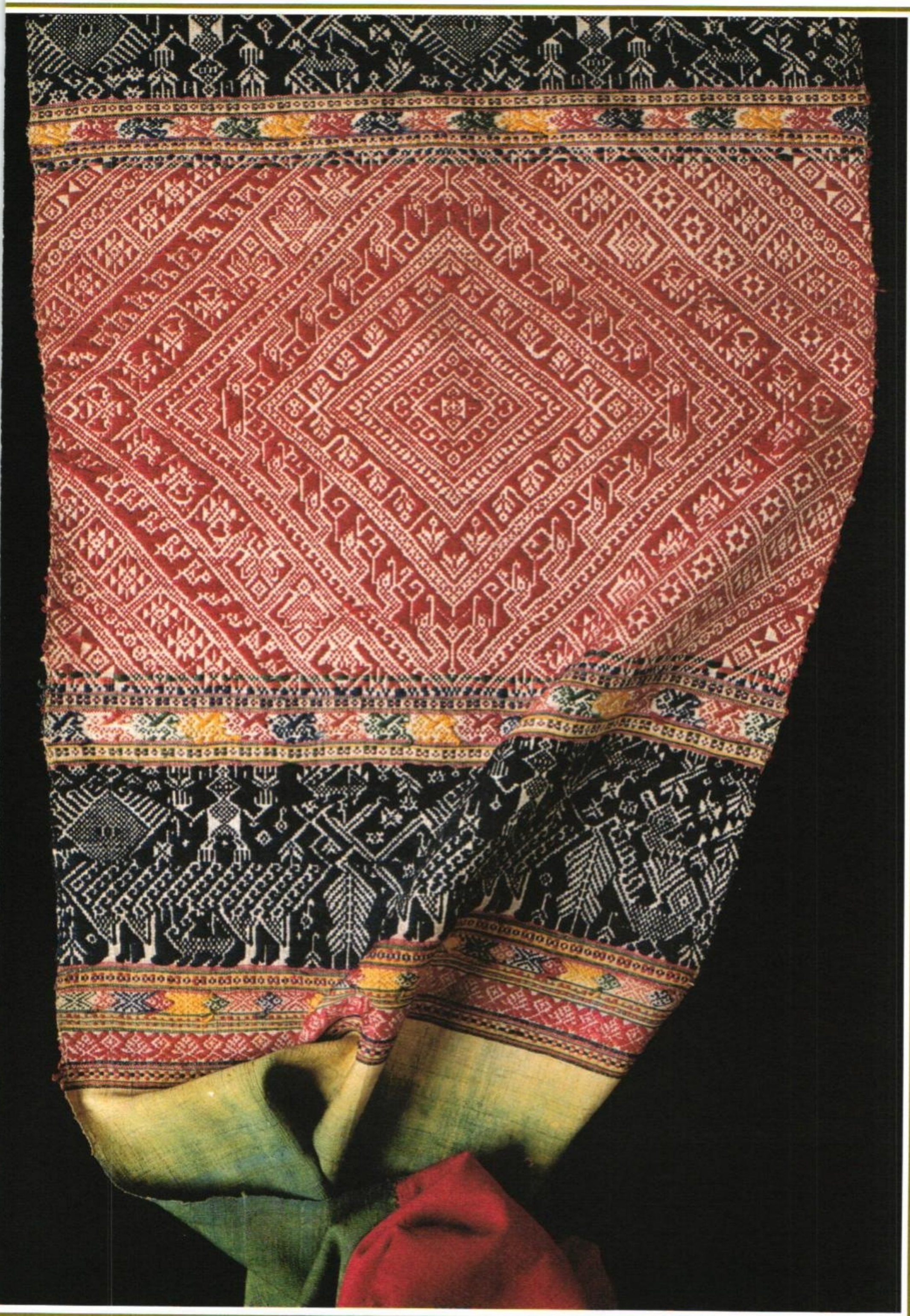
Shaman's Pha biang shawl.

ラオスの北東部サムヌア周辺に住む、精霊を信仰するタイデン族のショールです。シャーマン(祈禱師)が村の農家を回って厄を祓ったり、先祖霊を慰めたり、時には米の豊作を祈る儀式に使うものです。祈禱師が持参する場合もありますが、各家庭でも数枚用意します。

デザインは、最も一般的なものは、40×200cmほどの布の両端に、約30~50cmの浮織や縫取織の飾りがあり、まん中は平織りになっています。又、その飾り部分は、一方が浮織のタントラ紋様なら、もう一方が縫取織の象ライオン紋様というように全く別の世界を表わします。これは豊穡祈願を表わしています。

次頁：20世紀半ば、サムヌア地方、タイデン族、シルク、浮織、縫取織。Mid-20c. Tai Daeng e.g., Shaman's silk shawl.





つづれ おり
綴織

——ルー族「村の素封家のモダンな筒スカート」

A wealthy's modern pattern sin.

多民族国家のラオス。人口の約半数強を占めるラオ族を初め、プータイ、カム族も、紀元1世紀頃から数千数百年もかけて中国から南下してきた人々です。その中でルー族は移住が遅かったのでしょうか。低地ラオ族に分類されていますが、今も、北部のポンサーリー、ウドムサイ、サイニャブリー県などの山間に住んでいます。

この布は、ウドムサイ県フン市のルー族の素封家が持っていたシン用のシルク布で、綴織(一部縫取織)です。紋様は「ツバメ」。ツバメが羽を広げて飛ぶ様子をデザイン化したモダンな珍しい布です。(コレクション:ケオモンティ) Collection:Keomontrii

20世紀初め、ウドムサイ県フン市、ルー族、シン、シルク。 Early-20c. Lu e.g..Silk sin.Tapestry weaving.Oudomxay pref..



浮織——花嫁道具「蚊帳飾とブランケット」

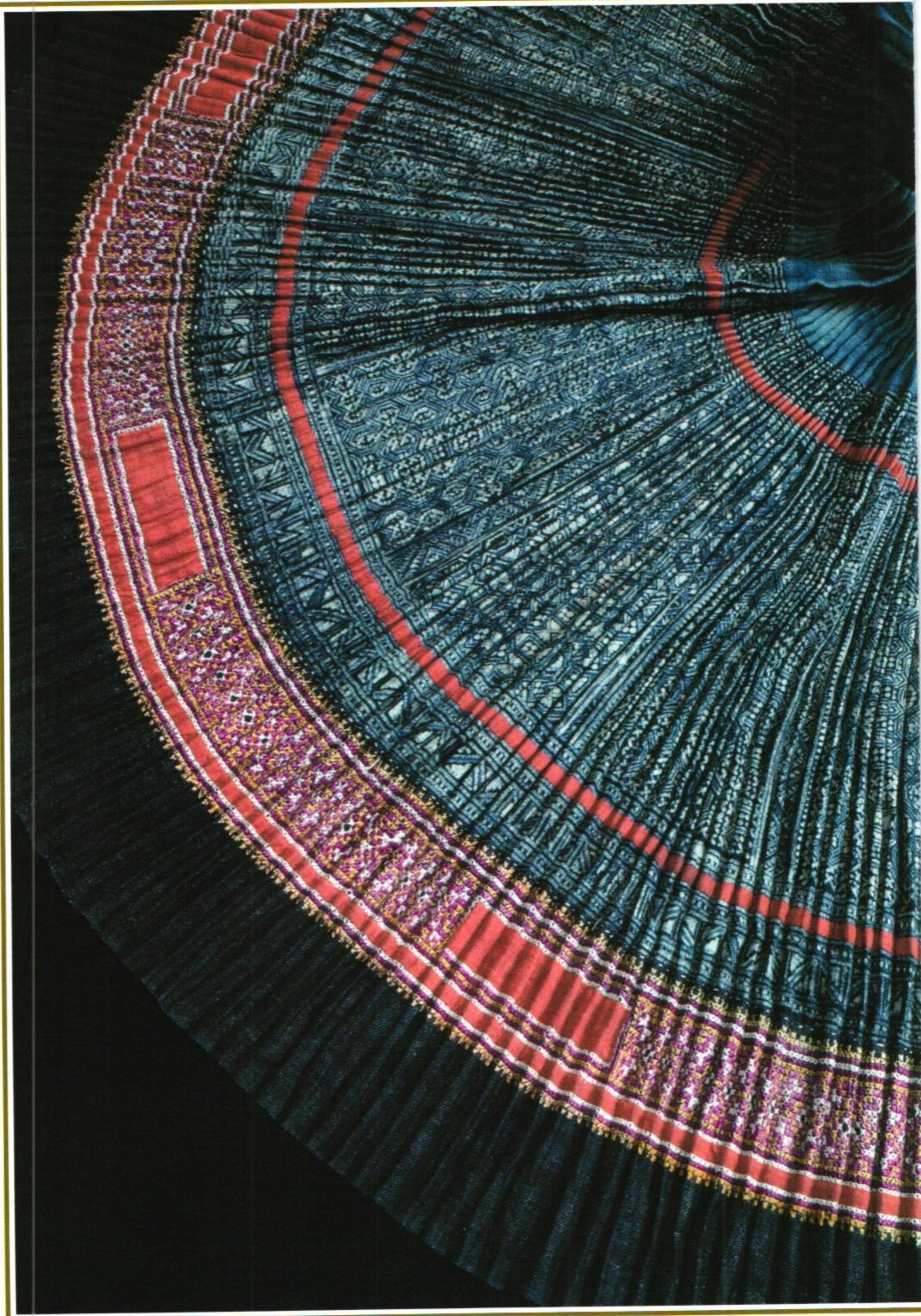
Wedding tools, Mosquito net and blanket.

ラオスには低地ラオ族の一部に、今でも母系社会を守っている人々がいます。嫁の家に婿が入る結婚スタイルです。例えば、結納には、娘が婿となる人の義母のために、ショールやブランケットを織って贈ります。現在は、その婚姻例は少なくなりましたが、母から娘へ受け継がれる手仕事には、ラオスの染織の文化が滔々と流れています。(人口の多いタイ族は、元来、日本と同じ父系社会です。)

結婚前に娘がしなければならない布仕事の中で、最も大切なものが「蚊帳」です。蚊帳は熱帯のラオスに不可欠な生活道具ですが、大家族の中で二人だけのスペースを作るための結婚道具でもあります。黒木綿の蚊帳の上部に「飾り布」があり、ナガ(龍)、花、鳥、象など様々な紋様が、祖母や母の助けを借りて、織り込まれます。これは、この家の手仕事の結晶ともいべきもので、結婚後、後々までも織の見本として大いに役立ちます。(蚊帳全体図P.70参照)

左2点は、タイデン族のブランケット。右4点は、タイデン族の「蚊帳飾」浮織、一部縫取織。Left 2 pieces: Tai Daeng e.g. Blankets. Right 4 pieces: Tai Daeng e.g., The ornament of mosquito net, continuous and discontinuous supplementaly weaving.





ロウケツ染——モン族「織・染・刺繍の結晶プリーツスカート」

Hmong's pleats skirt.

モン族は、織・染・刺繍を満遍なくこなす、とても器用な人たちです。800~900m以上の高地に住み、都会とは離れた生活をマイペースで過ごしています。

この夢のような丸いプリーツスカートは、巾35cm程の反物風の布を3段に繋いだもので、全長は着る人の身長約3倍あり、4.5~5m以上にもなります。素材は麻。麻を栽培することから始めて約1年、紡ぎ・織・ロウケツ染・刺繍・プリーツ縫付など、約10の工程を経てようやく出来上がります。モン族の正月「キンチャン」は12月中旬から末日にかけて。各村独自のスケジュールで行われ、収穫祭の意味も持っています。村々では仕立上がったばかりのプリーツスカートをはいて踊るモン族の少女や女たちの、嬉しさではじけるような姿を見かけます。

前頁: シエンクワン県、青モン族、麻プリーツスカート、藍ロウケツ染、刺繍、アプrique。コレクション: 中田路子
Hmong e.g.. Hemp pleats skirts. Indigo batik and embroidery. collection: Michiko Nakata



刺繍——ヤオ族「刺繍背帯と、つのかくし」

Yao's back cover and wedding head cover.

この写真は、刺繍のエキスパート、ヤオ族の女性が背帯を付けたところを後方から撮影したものです。背帯は、祭りや儀式に身に付けますが、クライマックスは集団見合いです。娘は、祖母や母に教わりながら、多種多様なヤオ刺繍を施し、より良き人を射止めるために一世一代の大仕事をします。

めでたく、結婚し、子供が生まれると、背帯は、布が足されて「ねんねこ」に変わり、やがて防寒のジャケットになります。インパクトの強い刺繍は、邪悪をはねつける魔除けの意味があります。

左: ルアンナムター県、ヤオ族、背帯又はねんねこ、ヤオ刺繍、藍コットン布 Yao e.g.. Ornamental back cover. Embroidery.

右: ルアンナムター県、ヤオ族、つのかくし(婚礼用)、ヤオ刺繍、藍コットン布 Yao e.g.. Wedding hat or head cover. Embroidery.

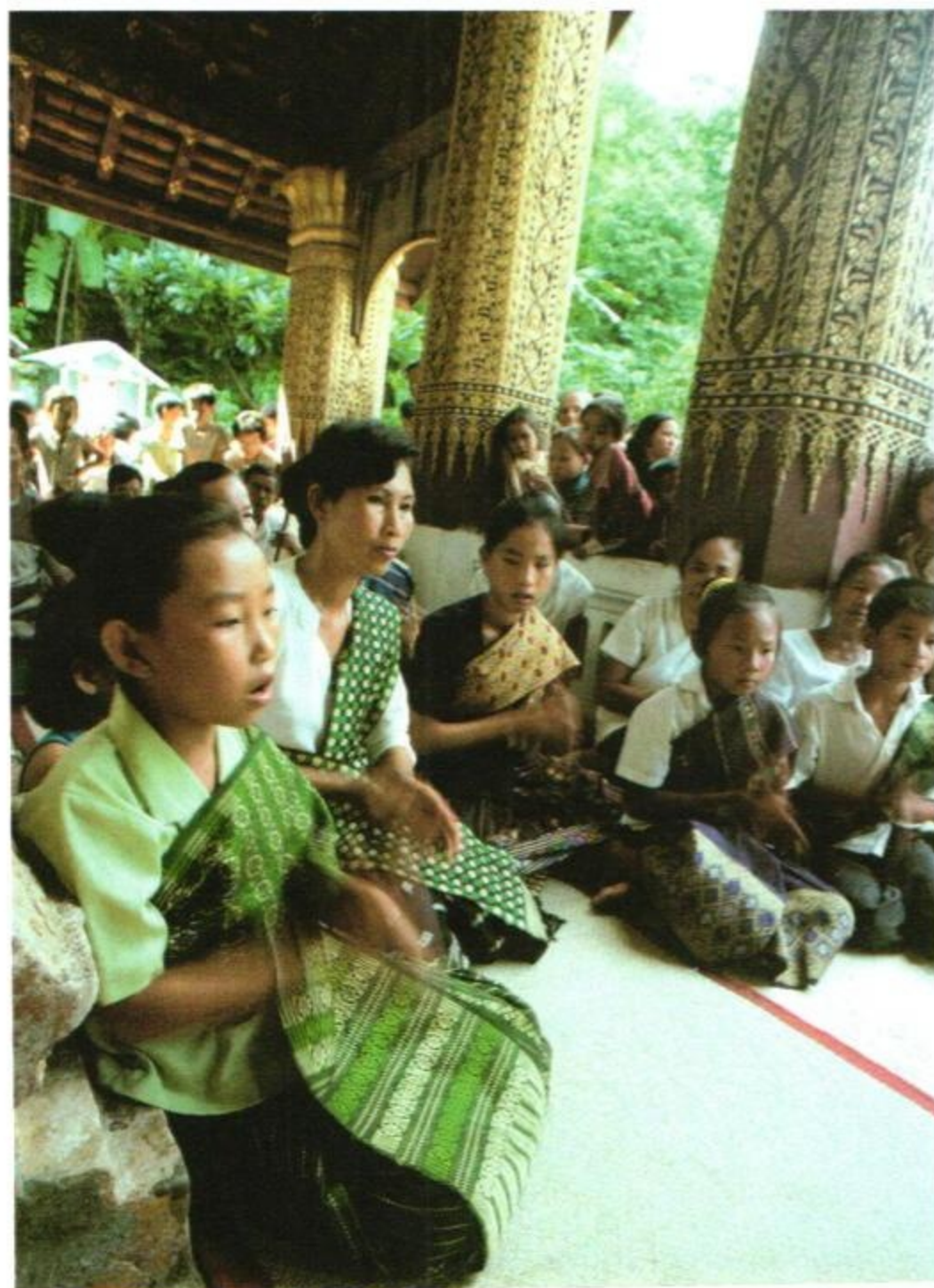
IV. ラオス少数民族の村を訪ねて

Visit to the villages of ethnic groups

ラオスの国土の広さは、24万km²(日本の本州とほぼ同じ)。人口は約553万人。中国、ベトナム、カンボジア、タイ、ミャンマーの5カ国に囲まれ、西にメコン川、北に数千m級の高山。中部の水田地帯とジャングル、南部の高原や巨大瀑布、起伏に富んだ厳しい自然が狭い国土に凝縮されています。

また、ラオスはその数50以上ともいう多民族国家です。何世紀にも渡って周辺国から、ラオスに辿りついた民族が、高い山や深い森に守られながら、独自の文化を形成してきました。ラオスのバリエーションに富んだ染織の発達も、この厳しい自然と多民族であったことに、大きく因んでいます。

14世紀半ば、ラオスの建国の王といわれるファングム王が、ルアンパバーンにラーンサーン王国を築いた頃、王は各地方の領主に、絹織物の貢納を命じたという記述が残っています。それは、すでにその頃、良質のシルクを得るための養蚕とそれを美しい布に織り上げる技術が、備わっていたことを意味します。ラーンサーン王国をさらに確立拡大させた16世紀のセタティラート王、17世紀のスリニャヴォンサー王たちが、絹織物を国の産業として力を注いだことも、忘れてはならない史実です。



朝霧の古都に読経が流れる ルアンパバーン

ワット・ジャンメン寺院にて。伝統のパー・ピアンヤシンで着飾った子女がお経を奉納している。 Luangphrabang pref., Wat Xiengmeue. Traditional Lao costume.

中国への国境近く ムアンシン市

次頁：ムアンシン郊外の水田風景

ムアンシン郊外で出合った、畑へ出かける途中の黒タイ族(タイダム)の女性。黒タイ特有の黒い頭巾と、銀ボタンのショートブラウス、黒のシンをきちんと身に付けていた。村のあちこちで糸を藍に染めて干す光景が見られる。 Tai Dam (black tai) e.g., Traditional costume. Luang Namtha pref..



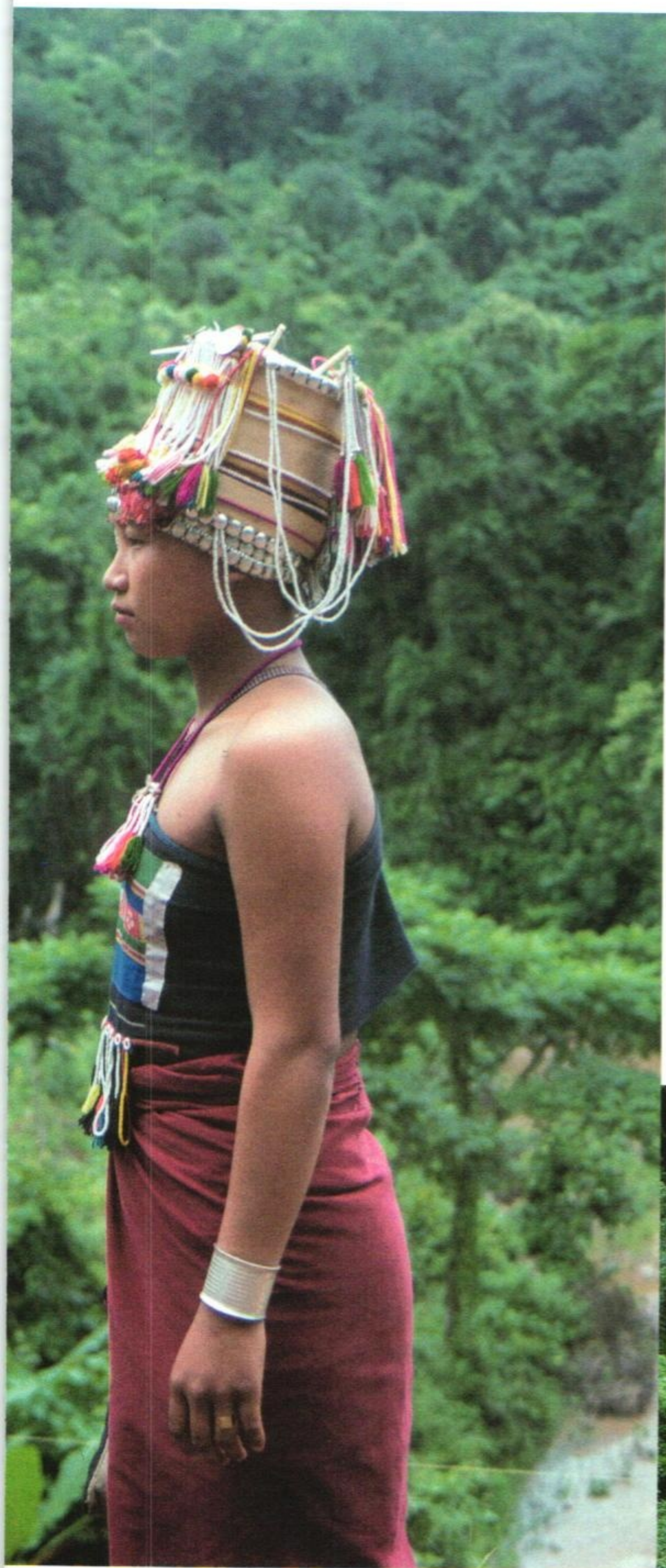


ジャングルの中からアカ族が……

ルアンナムター県

ウドムサイからムアンシンまで車で行く途中、民族衣装を着て道を歩いているアカ族の女性たちに出会いました。シルバーのコインや銀の部品で飾った帽子、アップリケのタンクトップのような胸当、そしてコットンのシン(筒スカート。見えないが、その下に藍染ミニプリーツスカートをはいている)。まるで写真集の本の中から出てきたような装いにドキドキしながらも、いろいろ楽しい話を聞くことができました。今、山や焼畑の仕事を終えて、平らな道に下りてきたこと。このあと、森に入ってキノコや筍などを採り、もし沢山収穫できたら、村の市場に出すこと。いつも歩きながら、綿を紡いだり葛糸でネット袋を編んでいること、などなど。

下: 蔓や蔦がからまるモンスーン地帯特有の森。アカ族は、この豊かな森から木の実や小動物を採集し、村の市場に出して生計を立てている。 Akha e.g.. Traditional costume. Luang Namtha pref..



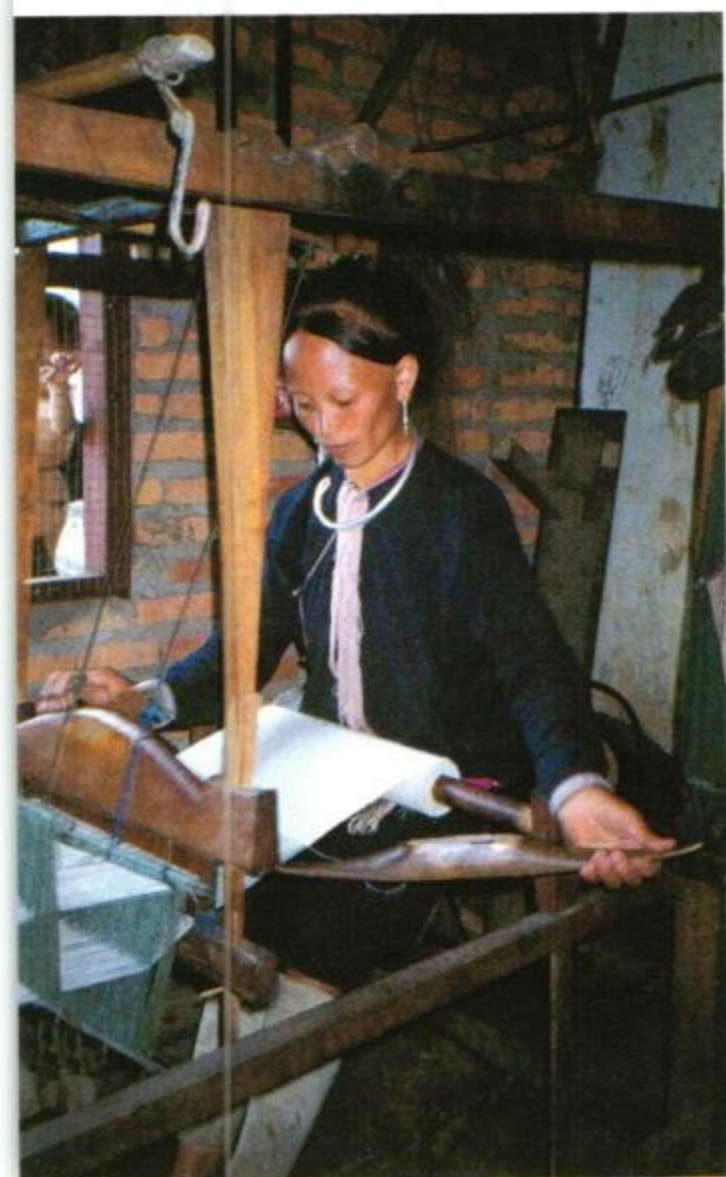


藍畑に囲まれて ルアンナムター県

ラオスの藍には、大きく分けて「リュウキュウ藍」と「インド藍」があります。北部のルアンナムター県やウドムサイ県辺りでは、殆どが豆科のインド藍で作る泥藍染が行われており、その原料藍は広い畑で栽培されています。

左：豆科のインド藍の生葉と水を鉄のドラム缶に入れ発酵させ、泥藍を作る。レンテン族。
Lenten e.g., Luang Namtha pref., To make muddy Indigo with Indigo leaves.

左下：綿布を織るレンテン族の女。レンテンの女は、14か15歳になると、眉を剃落とす。女の眉には悪霊がとりつき易いので、前もって取り除くという。精霊信仰によるもの。Below:Lenten e.g., cotton cloth weaving.



雨のモン族の村 サムヌア郡

シエンクワンから北のサムヌアに車で向かいました。周囲は山々が重なり、雲が低く垂れこめ雨も降ってきました。そんな山間にへばり付くように建てられた青モン族の集落を見つけて、少し休憩をとっていると、どこからともなく民族衣装の青モン族の一家が現れ「サバーイディー（こんにちは）」。家族全員が華やかなモン刺繍の晴着です。隣村で、のど自慢大会があり、それに出場するためのお目かしとか。蒙の村にも新しい時代がおとずれていることを感じました。

次頁：山の斜面に建てられた蒙の集落。蒙族の家は、地上に直接建てられる。Next P. : Hmong e.g.village. Xamnuea dist.,

次頁左下：刈り取った麻を、家の土間に入れ、火を焚いて乾燥する。Next P. left below: Blue Hmong e.g.. Set on fire for drying hemp in the shed.

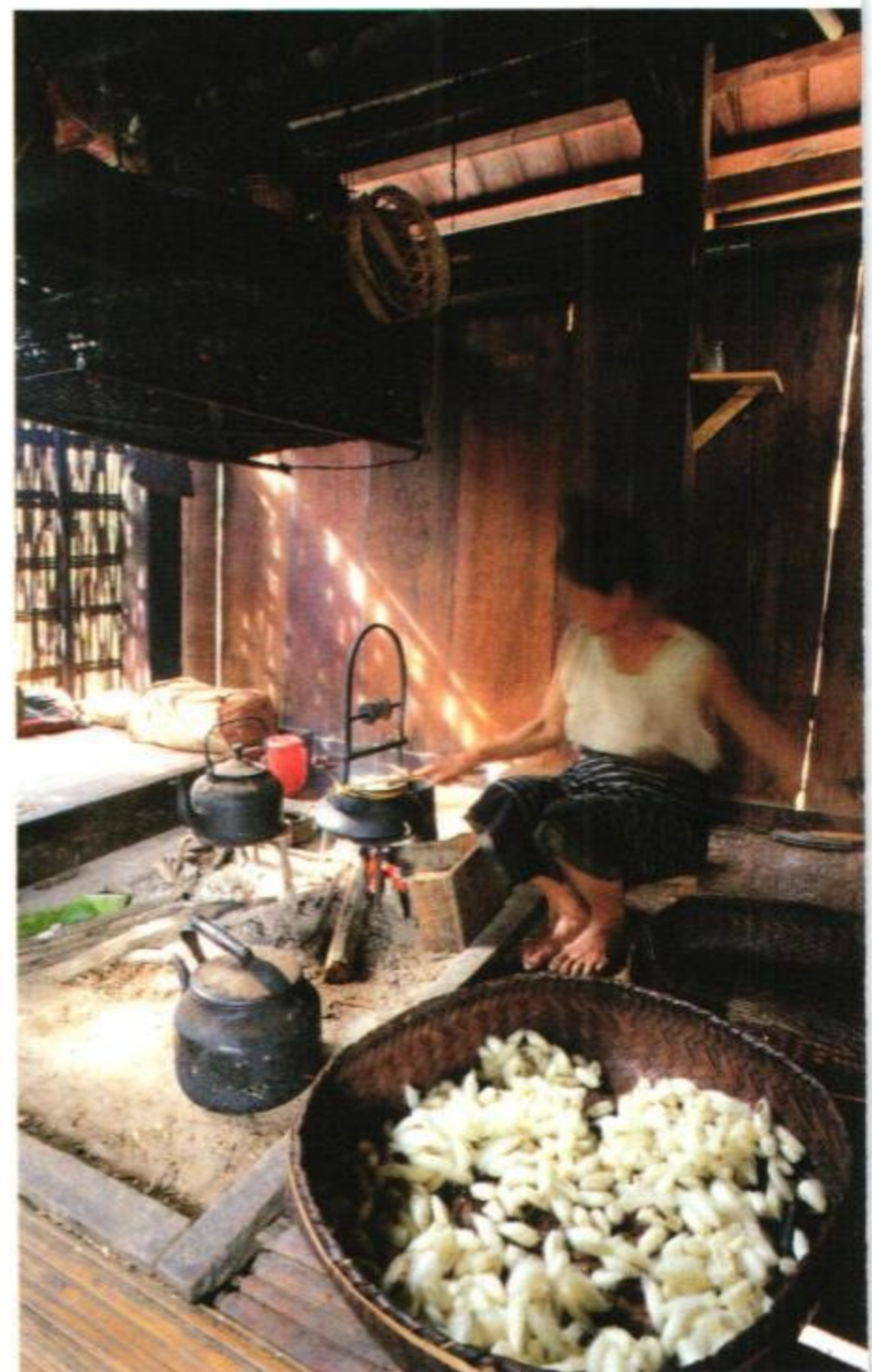
次頁右下：青モン族の一家。モン特有のアップリケ、モラ、刺繍のカラフルな晴れ着。Next P. right below: Hmong's family.Traditional costume,applique,mora,embroidery.





住宅の床下に娘の数の機織機^{はたおりき}
 フアパン県バンポンサイ村

絣、浮織、縫取織、タームック……織細華麗な織物たち。ラオスの織物のメッカ、サムヌア、その南約20kmにあるタイデン族のバンポンサイ村。ここでは朝から晩まで機織の音が絶えることはありません。高床式の家屋の床下では、一家に少なくとも1台、3台並んでいることも珍しくありません。床上の家の中の台所では、繭を湯に浸して糸を引き出す作業がせっせと進められていました。タイデン族の女は本当に働き者です。 Tai Daeng e.g. Houaphan pref. B.Phonxai village.



V. 少数民族衣裳図鑑 The picture of ethnic group's costumes

ラオス民族マップ map of Lao ethnic groups

民族の数は、50から100とも言われる多民族国家ラオス。彼らの衣裳は深い森に守られ、独自のスタイルを保って来ました。その中でも代表的な民族によるユニークな装いをご紹介します。民族の分類を、ラオス政府が現在採用している、下表のような、3つの体系に分けました。



モン族 Hmong e.g.

女(青モン) Female



衿かざり(コットン、刺繍)、上着(コットン藍、胸飾刺繍)、シルバー首飾、前掛(コットンサテン地&シルク)、プリーツスカート(麻藍ロウケツ染、刺繍、アップリケ)

右:ポッシュェット(コットン、モラ、刺繍)



男(青モン) male



帽子(コットン刺繍、アップリケ)、上着(コットンサテン地、刺繍、アップリケ)、ベスト(コットン、刺繍)、ベルト(シルク、浮織)、パンツ(コットン藍)

モンの布仕事

The works of Hmong e.g.

中国のミャオ、タイのメオと同族。ラオスではモンと呼ばれ、ラオスの北部のルアンナムター、ウドムサイ、ルアンパバーン、シエンクワンなどの各県の800~900m以上高地に住み、カラフルな刺繍やアップリケが施された衣裳やバッグ類、麻藍ロウケツ染のプリーツスカートなどが有名。青モン、白モンと分ける呼び方もあるが、例えば、青モンなら藍をベースの布にしていることから、名が付けられている。



正月の前夜祭で集まったサイニャブリーの白モン族の女たち。女が集まると、自然に輪ができて、おしゃべりしながらの刺繍が始まる。

祭りの日 Festival

ラオスの西部サイニャブリー。モン族の祭衣裳。左から白モン族未婚の女性。青モン女の子。青モン既婚男性。

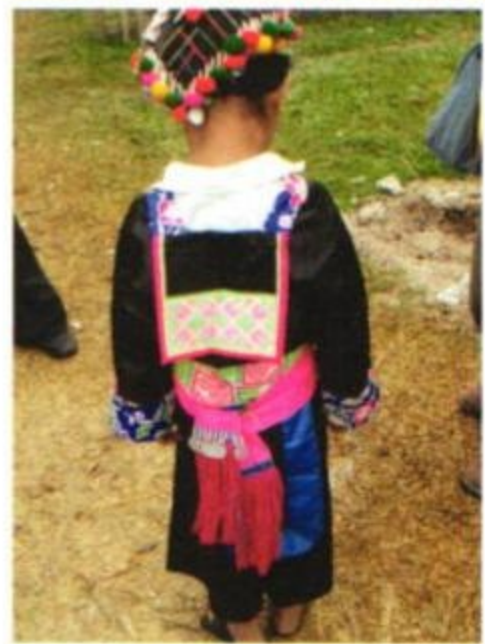


バックジャンのモン衣裳

Back style also decorative

前姿が華やかなモンだが、後姿もカラフルなのがモンの特長。特に女性の上着の後首にちょこんと付ける衿飾スリカゼリは、刺繍の高い技術とセンスが凝縮されていてまるでアートだ。ベルトも華やかで、後ろで締める。

上から、白モン女性。青モン女の子。青モン男性



プリーツスカートができるまで

Mong's pleats skirt

モンの手仕事と言えば、女たちが祭りに付けるプリーツスカート。細長い麻藍ロウケツ布を3段につないでプリーツを作り、藍染の部分に刺繍やアップリケを施す。麻の栽培から始めて、織、ロウケツ藍染、ロウ落とし、縫い、刺繍、プリーツ付など約10工程、10カ月～1年かけてスカートを作る。この写真は、青モンのプリーツスカート。



ヤオ族 Yao e.g.

女 Female

男 male



ウールストール付コットンチュニック(藍)、ヤオ刺繍ベルト(コットン藍)、ヤオ刺繍パンツ(コットン藍)



ヤオ刺繍上着(コットン藍、袖や縁は組紐)、ヤオ刺繍ベルト、パンツ(コットン藍)

ヤオの布仕事

The works of Yao e.g.

19世紀、中国から南下し、タイ、ヴェトナムにも同族がいる。ラオスの北部ボーケーオ、ルアンナムター、ポンサーリー、サイニャブリーの各県ヴィエンチャン近くにも住み、刺繍が得意。ヤオ族の刺繍は、ここ一世紀の欧米の介入によって、広く世界に知られるようになり、アメリカでは専門店がオープンするなど人気を得ている。



ラオスの西部サイニャブリーのヤオ族の女たち。衣裳は自らの作。よく見るとパンツの刺繍は各人異なり、各人のセンスが生きている。ターバンは約4m、ぐるぐる巻いて防寒と日除けにする。



ねんねこケープ。コットン藍布上に、組紐刺繍とアップリケ。



ターバン。コットン藍布、両端に刺繍。31×346cm

不思議な刺繍

Mysterious Yao's embroidery

刺繍をする人なら誰でも知っていることだが、普通、表と裏が別の形となる。ところが、ヤオ刺繍には写真のように、表も裏も全く同じ文様が表われる技法「両面直角刺」がある。その針運びは、一度通った箇所は二度通らないというから驚きだ。この文様1つで、260針。

表



裏



ヤオの「組紐」

Yao's braid cord

ヤオ族は刺繍以外の布仕事はあまりしない。布は他の民族から物と交換で求める。そんなヤオが繊細な刺繍の仕上げとしてする仕事が組紐である、写真のように2人が

対面して組む光景が見られる。衣の袖口や裾にテープのように縫い付けて補強を兼ねた飾りにする。細い色がピシッと入って、なかなかのセンスだ。



レンテン族 Lenten e.g.

女 Female



ベルト

頭巾(コットン藍布、シルク刺繍)、儀式用ストール(コットン、刺繍)、首飾(シルク)、シルバー首飾、刺繍バッグ(コットン)、チュニック&パンツ(コットン藍、前飾りのピンク糸はシルク)、脚絆(コットン)、ベルト(シルク、ビーズ)

男 male



刺繍バッグ(コットン)、上着(コットン藍)、パンツ(コットン藍)、刺繍クツ

レンテンの布仕事

The works of Lenten e.g.

モン、ヤオと同じく19世紀中国から南下してきた。今も漢字を使用する数少ない民族。北部ルアンナムター、ボーケーオ県などの川辺に住み藍染をよくする。藍靛と自らを書くように、彼らの染める藍の反物は、どの部族にも負けない堅牢度がある。特に「レンテンブルー」と呼ばれる明るい藍(上の写真、男パンツ)は洗うほどにブルーが冴えることから人気が高いが、生産人口の減少により求めにくくなっている。

漢字のようで、漢字でない?

Chinese character or not?

レンテン女性の儀式用ストールの文字を拡大したもの。漢字のようで、漢字ではなく、レン



テン族特有の文字である。(レンテン族は元来、漢人ではない)しかし、今、ラオスにおいては、当のレンテンでさえ、解読する人は稀という。意味の大方は、弔、慶、魔除けなど。

アカ族 Akha e.g.

女 Female



シルバーを飾った帽子、上着(コットン藍、アップリケ)、胸当(コットン、刺繍、アップリケ)、プリーツスカート(コットン藍)、脚絆(コットン、刺繍、アップリケ)

中: 女性用葛糸バッグ

男 male



上着(コットン藍、刺繍)、バッグ(コットン藍、刺繍)、パンツ(コットン藍)、タバコ入れ

アカの布仕事

The works of Akha e.g.

ビルマ・チベット語族のアカ族は、ミャンマー、タイ、ヴェトナムにも広く分布する高地部族。北部のポンサーリー、ルアンナムター、ウドムサイ、ボーケーオなどの県に住む。モンヤヤオが低地に移動している今日も高地に留っている。衣裳の特長は、殆どの女性がシルバーの帽子を一日中(就寝時も)かぶっていることだ。上着やバッグの飾りも銀貨が沢山使われている。シルバーは昔から彼らの財産であり、魔除けと信じられてきた。



ルアンナムター県のアカ族の女。簡単な織機で、立ったまま白コトンの反物(約20×600cm)を織る。この布を藍で染めて衣服のベース布とする。

ラオトゥン族 Lao Theung e.g.

女 Female

男 male



上着(コットン、ビーズ)、ベルト(コットン、組紐)、シン(コットン、ビーズ織込)



ふんどし(コットン、ビーズ織込)、39×480cm



タリアン族、いざり機

ラオトゥンの布仕事

The works of Lao Theung e.g.

「トゥン」つまり「山地の上」に住む少数民族を括って「ラオトゥン族」という。カトウ、タリアンなど、モン・クメール語族が中心で、中部、南部セーコーン、サーラヴァン、アッタプーなどの県の山地に住む。布の特長は、何といてもいざり機で織るしっかりしたコットンの赤と黒を基調にした経錦織。ビーズと一緒に織込まれているものもあり、力強くアート性のある布だ。この組織は、ミャンマーやインドのナガランド、遠くはイラン、アフガニスタンのキリム(ジャジム織)に通じる。

カーテンに、織女からのメッセージ
Messages of weaver women ?

カーテンやテントに使われたラオトゥン族のコットン経錦織。織込んだ文字は、ラオ語の文字。「ラオス人は若い時から布を織り、絹を縫う。ラオスの血は絶えることがない」と。織物をラオス人の命とする、文字を修得し、誇らしげな織女からの熱いメッセージだ。



タイデン族 Tai Daeng e.g.

女 Female



ターバン(シルク縫取織)、上着(コットン藍)、シン(シルク、緋、浮織、縫取織、ナガ紋様)



祭りの日 Festival



タームック(経緯浮織、緋、シルク)のシン(筒スカート)に、浮織シルクのパー・ピアン(ショール)を掛け、浮織や縫取織シルクのターバンを結ぶ。タイデン族の今の典型的な祭りの日の装い。

左:シャーマンの儀式用ショール。42×203cm

タイデンの布仕事

The works of Tai Daeng e.g.

ラオス北東部フアパン県の中で最も人口の多いタイデン族。「デン」は赤の意。赤い葬儀用ブラウスや赤いウエスト布、赤いシンを身に付けるからだという説がある。同系部族の黒タイ(タイダム)、白タイ(タイカオ)より、はるかに高技術の繊細な布を織る。ラオスの代表的浮織や縫取織のパー・ピアンやシンはタイデンの作が多い。今もシャーマニズムをとり入れる生活をしている。

白コットンベルトはサムヌアスタイル
White cotton belt of Xamnuea style

昔からサムヌア周辺のタイデン、タイダム、プアン、タイムーイ族などは、白い手紡ぎのコットン糸をベルトにする習慣があった。写真のように、太いコットンの糸と少量の赤い糸をからめてベルトにし、さらにその上に赤い糸で帯留のような飾り紐をつくる。おしゃれな彼女は、タイムーイ族。



タイダム族 Tai Dam e.g.

女 Female



左: 頭巾(コットン藍、シルク縫取織、刺繍)、上着(コットン藍、シルバーボタン)、シン(シルク、刺繍)

右: ターバン(シルク、浮織)、ポレロ(コットン藍、シルク刺繍、シルク浮織小片アップリケ)、シン(シルク拵、裾は縫取織、ウエスト布はコットン。胸まで長い。)

タイムーイ族 Tai Moei e.g.

女 Female



タイダムの布仕事

The works of Tai Dam e.g.

「ダム」は黒の意。黒タイ族ともいう。北部ルアンナムター県に最も多く、ウドムサイ、シエンクワン県にも多く住む。装いの特長は、濃い藍染によるコットン布をベースにしていること。頭巾やシンは、処々に色鮮やかな刺繍や浮織を施しているが、印象としては、藍布の黒さだ。ダークなブラウスに付いたシルバーの前ボタンもタイダムのトレードマーク。

花嫁道具の『蚊帳飾り』(タイデン、タイダム、タイムーイ)

Ornament of Mosquito net



北東部フアパン県の娘たちは結婚のために蚊帳を作る。蚊除けはもちろん、新婚スペース作りでもあるからだ。写真のように下はコットンの黒い布。上の力布ちからぬのの部分に飾りも兼ねて美しい浮織を織る。サイズは、約30×800cmの超ロング。祖母や母の助けを借りて織り上げるこの布は、実家の織のサンプルとなり、結婚後大いに役立つ。

ルー族 Lue e.g.

女 Female



左: 上着(コットン藍、テープステッチ)、シンの部分はシルク、下の黒い部分はコットン。(綴織、縫取織)

右: ターバン(コットン藍、シルク浮織)、上着(コットン藍、テープ刺繍、シルバーボタン)、シン(コットン藍、草木染縞織)

カム族 Khmu e.g.

女 Female



ルーの布仕事

The works of Lue e.g.

ラオ・タイ語族のルーは、北部サイニャブリー、ボーケーオ、ウドムサイなどの県に住む。衣の縁に細長いテープのような布を重ねて縫い合わせていく方法は、チベット・ビルマ語族のラフ族のステッチににている。晴着のシンには、綴織を中心に浮織、縫取織を織込む。本来は織を得意としたが、近年は近隣のヤオ刺繍の新しいクロスステッチを修得するのに熱心だ。



サイニャブリーのルー族の女性。上着は自らの部族の衣だが、今、刺している刺繍はヤオ族系のクロスステッチだ。ラオスは多民族国家であり、各部族が影響されながら共存していることがわかる。

ラオ族 Lao e.g.

女 Female

男 Male



婚礼用正装。上着(シルク、金銀糸刺繍衿飾り)、パー・ピアンとシン(シルク金糸縫取織)

衿の銀刺繍の拡大

婚礼用正装。パー・ピアン(シルク、格子紋様)、上着(シルク)、パー・ハーン(シルク、巻きパンツ)

ラオ族の布仕事

The works of Lao e.g.

ラオスの人口は、約553万人。その半数がラオ族である。ラオ・タイ語族の中心民族であり、ルアン・ナーン、ヴィエンチャンなどの都市部やメコン川流域の低地に住み、長い間ラオスの伝統文化を、彼らが築き上げてきた。「パー・ピアン&シン」セットのスタイルも、実はラオ族の装いが基本となっている。



祭礼用のシン。古都ルアン・ナーンの富豪の女性がいいたものと見られる。中国製のサテン地に金銀糸刺繍の宝相華、蝶、魚の紋様。

コラム/堀田 隆子

VI. ラオスの布を楽しむための基礎知識 と役立つ情報

The basic knowledges and useful informations for enjoying Lao textiles

サムヌア近郊のバン
ボンサイ村周辺では、
白く小さな繭から上
質なシルクが取れる。
Xamnuea cocoon



観光客が「黄金の繭」
と言って珍しが^るる養蚕
光景。ルアンパバーン
郊外。Golden cocoon

1. 「織」の種類と組織 ————— 74
2. 天然染料 色と原料 ————— 76
3. モン族の刺繍と4つの手法 78
4. 「織」の紋様とシンボル ——— 80
5. サムヌア地方の織物 ————— 82
6. 各地の「シン」 ————— 84
7. 布の店ガイド ————— 86

解説/堀田 隆子

1. 「織」の種類と組織

Structure of weaving

ラオス染織については、まず「手織」の魅力である。織細でバリエーションに富む、紋様や布のテクスチャーは、織の組織の複雑さと、女たちの根気から生まれる。



浮織、縫取織などの技法で肩掛を織っているところ。先の方に紋様をあらかじめ記憶させるための竹ひごが、経糸に通してあるのが見える。ウドムサイ県フン地方、ルー族の村にて。Hand weaving machine. Oudomxay pref.. Houn dist..

マッドミー
Matmee
Ikat weft

<布>



ラオス南部パークセー周辺の織細な絹緞。

<組織又は仕掛>



防染の括り。昔はバナナの糸が使われてたが、今はビニール紐が使われる。

コッ
Kor
Tapestry weaving

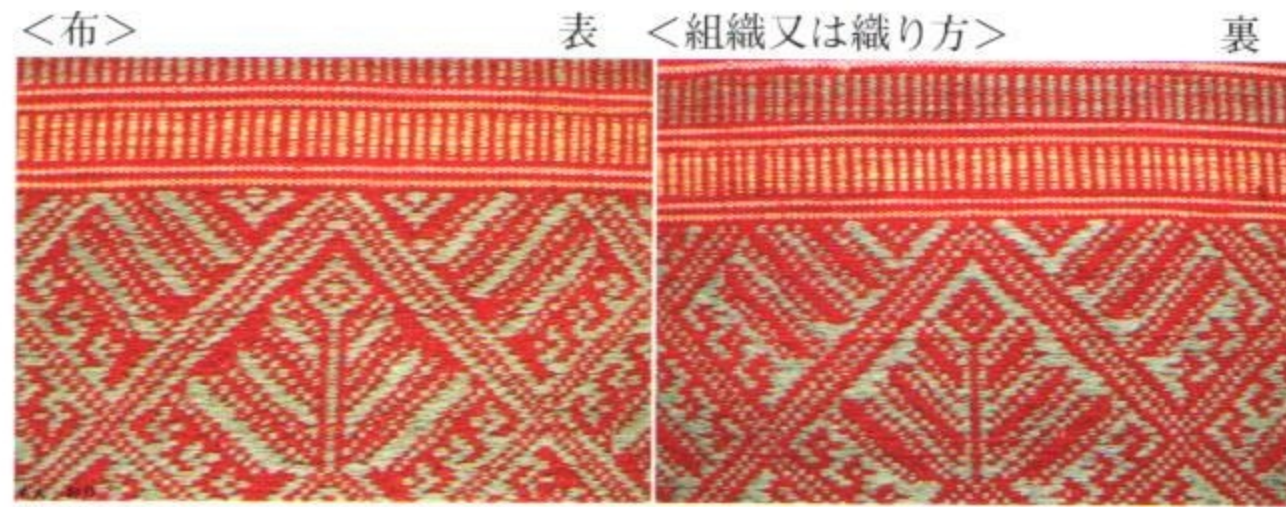


シンの一部



表裏全く同じ紋様になる技法。

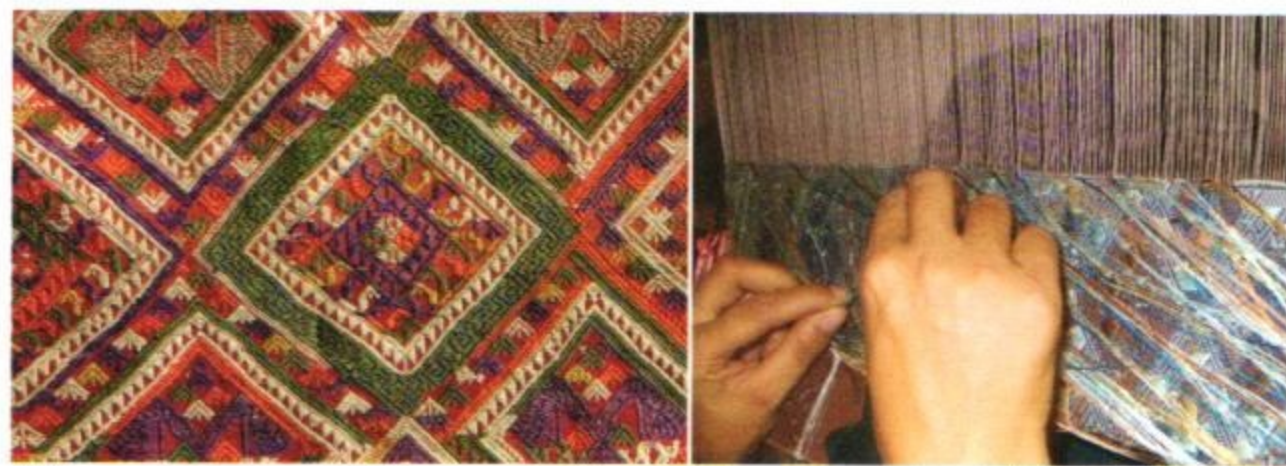
いしおりのり
浮織 Khid
Continuous supplementary weft



紋織とも言う。基本の平織に、緯糸がプラスされて、紋様が浮き出る。

表と裏は別の色糸が出てくる。逆の紋様になる。

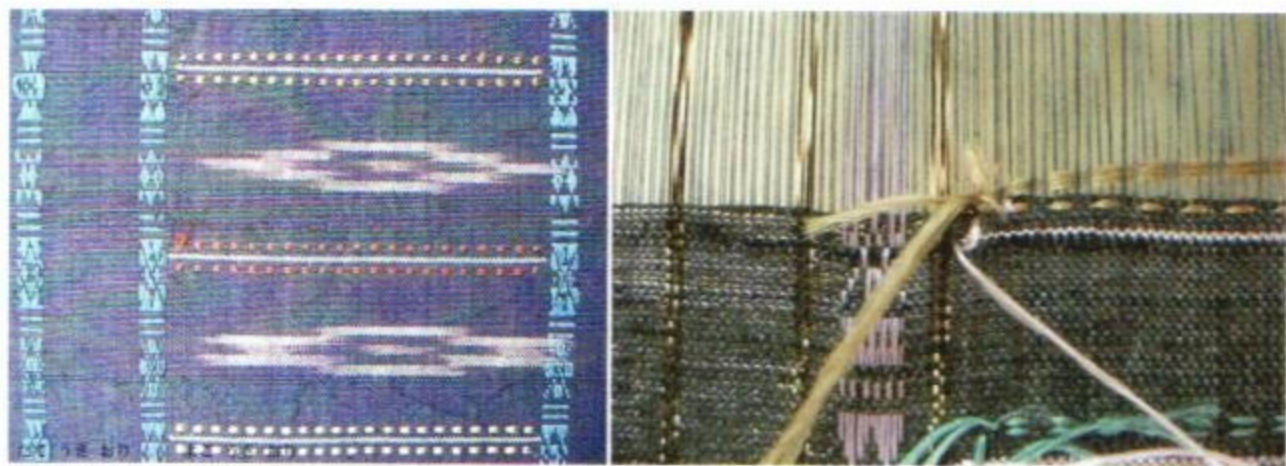
めいせりおりのり
縫取織 Chok
Discontinuous supplementary weft



細かい多彩色の紋様。浮織にもう一つ技法をプラス。

浮織のように一段に同じ色緯糸を織り込むのではなく、一つの紋様ごとに色を変えた緯糸で、まるで文様を縫うように織る。写真のように色緯糸は、次の段まで待つことになる。

タームック Taamuk
Supplementary weft and Supplementary wrap with Ikat weft



経浮織+緯浮織+拵が一緒に織込まれる、ラオスで最も手の込んだ織物の一つ。

経浮織用の色糸は、あらかじめ経糸としてセッティングされている。

せしおりのり
組織織
ラーイ ライ カオ
Lay lay khao
Heddle weaving



布:同じ紋様がくり返される“地紋”のような布。

織り方:この与具の場合は、4本のヘッデル(綜統)を足で操作し、紋様を織り出している。

2. ラオスの天然染料 色と原料

Natural dye in Laos

メコン川の恵みをうけて、染料の原料には不自由しないラオス。一般家庭の庭先でもマリーゴールド、ジャックフルーツ、ココナツヤシ、黒檀^{こくたん}など染めの原料となる草木が植えられている。ラオスの布の深い味わいは、植物染料を中心にした天然染料にある。

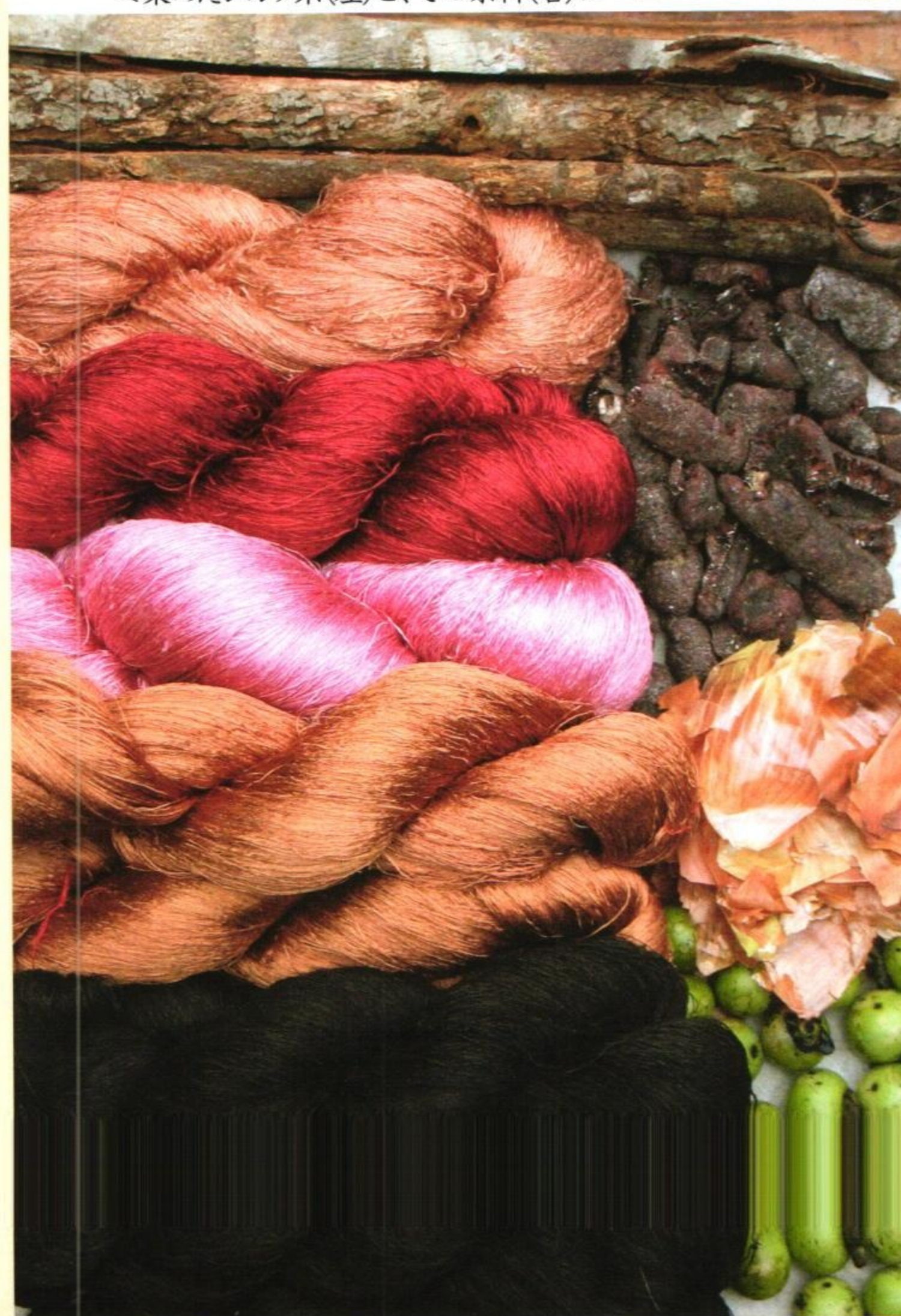


媒染によく使われるタマリンドウの実。一般家庭の庭先によく見かける木で、実は甘くおやつにすることもある。



数日煮汁に浸けた黒檀^{こくたん}の実をザルでこす。

< 染めたシルク糸(左)と、その原料(右) >



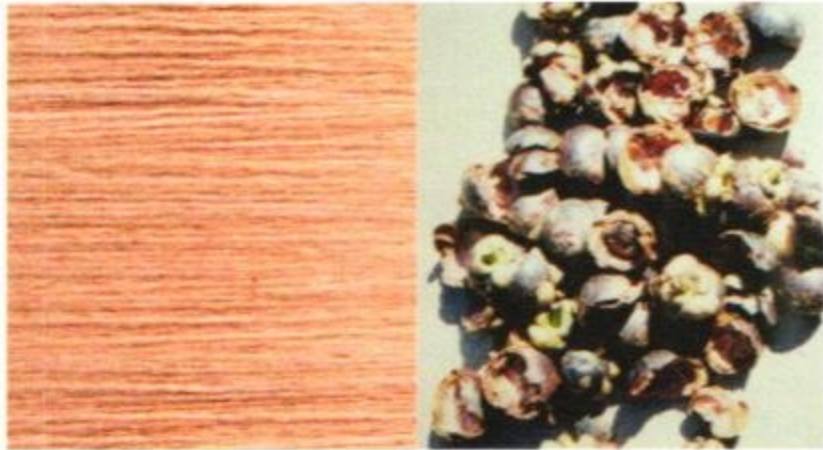
— シェトの木の皮
Betel tree bark
・糸はその下

— ラック虫 Lac
レッド&ピンク

— 玉ねぎの皮
Onion skin

— 黒檀^{こくたん}の実
Tai ebony fruit

マンゴスチンの実の殻
Mangosteen shell



テツの木の葉
Bombay black wood leaf



ジャックフルーツの木の幹
Jack fruit heart wood

木くず 実



ココナツヤシの実の殻(鉄媒染)
Coconut shell



ソリザヤの木の皮
Indian trumpet bark



リュウキュウ藍の葉 Indigo leaf
(発酵) ferment (煮染) boil



マリーゴールドの花(ミョウバン媒染)
Marigold flower



紅の木の実の種(ミョウバン媒染)
Anotto seed

実



3. モン族の刺繍と4つの手法

Hmong ethnic group's embroidery and its 4 methods

「モン族の女は刺繍ができないと、嫁のもらい手はない」と言う。幼い頃から母親をまねて、針仕事を手伝い、14歳を過ぎる頃には、自らの結婚衣裳づくりの用意を始める。衿飾り、ベルト、小物入れ、ターバン、プリーツスカートなどには、すべてに彼女たちの刺繍やアップリケがほどこされる。刺繍のモチーフは、山や溪谷を越えた高地に住むモン族の自然の生活から生まれたものが殆ど。刺繍布を分類すると、4つに分けられる。



サイヤブリー県の青モン族の女たち。集まると自然におしゃべりと、刺繍が始まる。

モチーフ motif



タニシ



ムカデ



星



花



波

4つの手法 4 methods of Hmong e.g. embroidery

布

拡大図

1. 「刺繍」

stitching

クロスステッチなど、刺繍だけで、モチーフを刺している



2. 「モラ+刺繍」

mora + stitching

2枚以上の布を重ねて、上の布をカットし、下の布の色を出しながら構成。周辺に刺繍もする。



3. 「アップリケ+刺繍」

applique + stitching

ベース布の上に、別の布を重ねて、アップリケをする。その上や周囲に刺繍もする。



4. ライフシーンステッチ

life scene stitching

「返縫」^{かえしぬい}に似た方法で模様を埋めていく。タイに逃れたモン族の難民キャンプから生まれた刺繍。彼らが理想とする山や森の暮らしが刺されている。



4. 「織」の文様とシンボル

Motif of weaving and its symbols

シン(筒スカート)、パー・ビアン(ショール)、ブランケット、袋物、ねんねこ……ラオスの人々が毎日身につけたり、暮らしの中で使う布やファブリックには、ラオスの人々の信仰、習慣、生活、歴史、民族などさまざまな文化がモチーフとなって織り込まれている。

ナガ Naga

メコン川を象徴する水神。龍のモチーフ。



寺院 Temple

仏教国ラオスの信仰心の象徴。地方には精霊崇拜が、今も根づいていて、建物は、寺院や立派な墓を意味する。



シーホ(象ライオン) Siho

タイ族の守護神。慈愛。南部チャムパーサク王朝の紋様にもある。



ガルーダ(トリ) Garuda

ヒンズー教の神鳥。クメール族の守護神。



タントラ Tantra

インド思想の影響。自己と神との一体化。修行。魔除。



スピリット Spirit

先祖。靈魂。供養。



カエル Frog

水田。豊作。



サル

Monkey

ヒンズー教の神の遣い。



カギ

Hook

中国の影響。安寧。



山羊紋様のベビーカバーを付けて子守りをする、タイムーイ族の父親。シエンクワン県、ソプターン村。ヤギは、食を支える豊穡の神。



水牛

Buffalo

供養。魔除。



人と馬

Man and horse

パワー。魔除。



生命の樹

Tree of life

長寿。健康。幸運。



妊婦

Pregnant women

子孫繁栄。幸運。



花

Flower

豊穡。幸運。



舟

Ship

浄土。



ゲンゴロウ

Diving beetles

水田。豊作。



星

Star

豊穡。子宮(子孫繁栄)。



5. サムヌア地方の織物

Weavings of Xamneua district

ラオスの織物の代表と言え、やはりサムヌア地方の絹織物である。その歴史は古く、14世紀半ば、ラオスの建国王といわれるランサーン王朝のファーム王の頃には、国がサムヌアへ絹織物の献納を命じたという記録が残っている。織人たちは、タイデン(赤タイ)族をはじめ、タイヌア、タイムーイ、タイダム(黒タイ)などの民族。

パー・ビアン(ショール) Pha biang



左から
タイデン族 女性用ショール、
縫取織、43 × 186cm female
shawl/Tai Daeng e.g.

プアン族 男性用ショール、浮
織、43 × 128cm male shawl/
Phuan e.g.

タイデン族 シャーマン儀礼
用ショール、縫取織、23 × 285
cm shaman's shawl/Tai Daeng e.g.

ターバン Turban



タイデン族 女性用ター
バン、縫取織、38 ×
152cm female turban/
Tai Daeng e.g.

戸のカーテン Door curtain



黒タイ族 カー
テン又はドア飾
り、縫取織、60
×162cm
Tai Dam e.g.

儀礼用布 Ceremonial cover



right(both): タイデン族 祭壇布、縫取
織、ナガ紋様、38×92cm
Tai Daeng e.g.



タイデン族 祭壇布、縫取織、
スピリット紋様、41×62cm

女性のパー・ビアンを着方

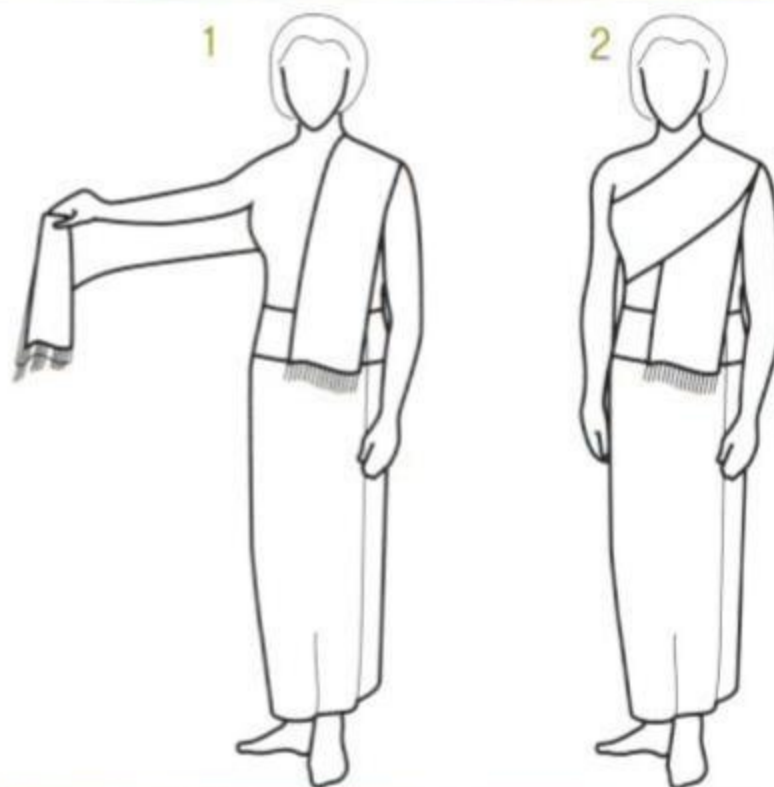
How to wear Pha biang

用意 ブラウスや上着を着る

1、ショール1/2に折り、片方の肩に後ろからか
けて、ショールの垂れ具合を調節する。

2、残ったパー・ビアン的一方を右脇下から左
肩上に巻き上げて、左肩後方に垂らす。

ショールがずれ落ちないように、ブローチでと
めることもある。



「シン」のまとい方

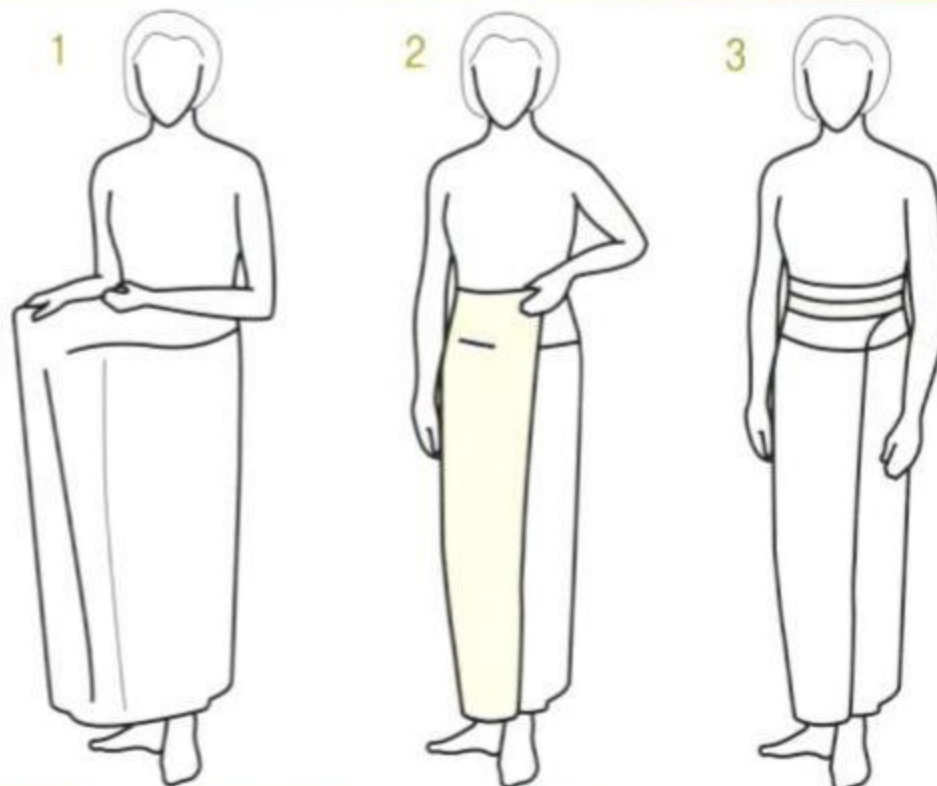
How to wear Sin

1、筒スカートの中に体を入れる。

2、自分の胴回りに合せて、折りたたむ(右、
左どちらでも良い)。

3、ベルトや紐で締める。

あらかじめウエストの折山の2カ所にスナ
ップをつけておくと便利。



6. 各地のシン(筒スカート)

Sin of different districts

幼女から老女まで、ラオス全土の女性の誰もが毎日身につけるシン。その紋様と色、織り方の違いで産地や民族の名までがわかるほど、各々に特長がある。

フアパン県 Huaphanh



タイデン族 中央部: タームック (緋+縫取織、経緯浮織)。シルク・コットン。最も手間のかかる織。Tai Daeng e.g.. Sin taamuk

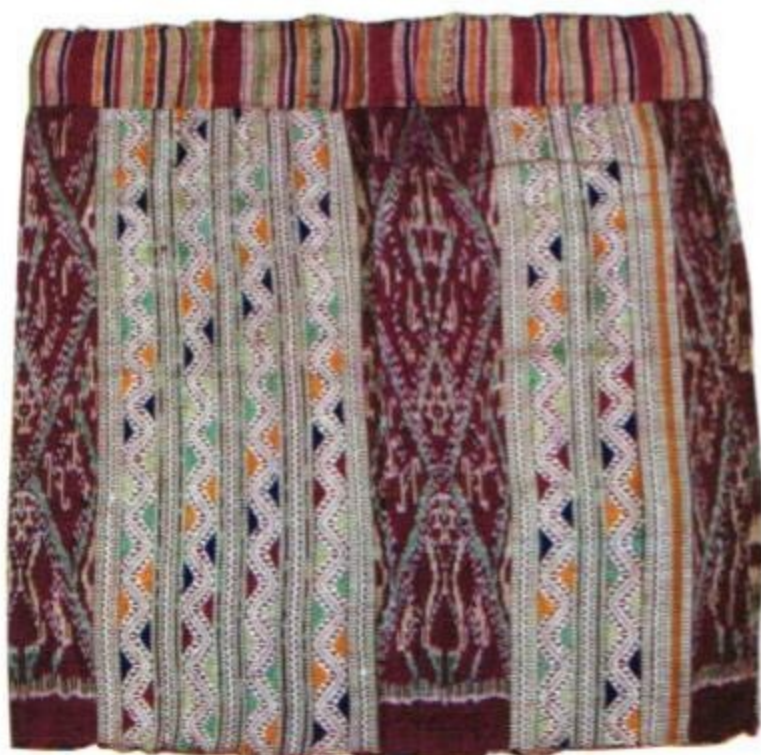


タイデン族
中央部: 緋+浮織+縫取織、シルク・コットン。Tai Daeng e.g.



タイムーイ族
胴・裾: コットン&シルク布にシルク糸の刺繍、牛紋様は先祖供養や魔除けの印。Tai Moei e.g.

シエンクアン県 Xiengkhuang



左: プータイ族
中央部: 緋+縫取織+浮織、シルク Phu tai e.g.



右: プアン族
中央部: シルク緋、裾: 銀糸モール浮織、裕福な人のシン。Phuan e.g.

ポンサーリー県 Phongsaly



ルー族 中央部:コットン地にシルク糸縫取織。
Lue e.g.

ウドムサイ県 Oudomxay



ルー族 中央部:緋+浮織+綴、綴はウドムサイ
県ブン郡周辺特有の布仕事。Lue e.g.

フリーサイズの「シン」

Free sized sin

シンは、3つのパーツから成る。上から「ホア」「トゥー」「ティーン」と呼ぶ。それら、3つのパーツのサイズやデザインを変えることによって、着る人の体格、好みに合わせるできるようになっている。今も手織機が主流のラオス。機の幅に限界があったが故に、人々は工夫し創る愉しみを知った。陸の孤島ラオスの不自由さが生んだ自由なスカート。



フアパン県 タイムーイ族 Tai Moei e.g.

街で出合ったシン美人

Sin-beauty seen at the city

① 絹緋のシンでちょっとお出かけ。

ルアンパバーン。

② 古着を、上下逆にはいて、意外性を。

ルアンパバーン。

③ 朝市の看板娘。新作のシルクシン。

ヴィエンチャン。

④ 白・黒のシンは、ラオス全土の小・中女子生徒の制服。サイニャブリー。

⑤ セリ売り娘は、シンの紋様からルー族とわかる。

クアンシー。



7. 布の店ガイド

Guide to Lao textile shops

ヴィエンチャン Vientiane

<マイカム Maicome>

在ラオスの外国人から高い評価と、人気を集める店。婚礼衣裳からカジュアルなネクタイやショールまで。オーダーが主流。工房を隣接。Tel.(856)21-312275

<チンダー Chinda>

伝統の布や衣装のパー・ピアン。ショールやシンスカートを自由に見て選べるギャラリー風ブティック。工房見学可。Tel.(856)21-412109

<ペンマイギャラリー Phaeng Mai Gallery>

高技術を要す全面縫取織の最高級パー・ピアンショールが有名。外国人の為の短期研修講座を開催。Tel.(856)21-243121

<ニコーン・ハンディクラフト Nikone Handicraft>

良質なシルクやコットン、草木染が中心の天然染料、すべてラオスの自然素材にこだわる店と工房。衣服、ファブリック、インテリアグッズも充実。Tel.(856)21-212191

<トルーカラー True Colour>

手紡ぎ・手織り・天然染料をコンセプトにする、ホアイホン職業訓練センターで製作した布や衣装やファブリックを販売。服のオーダーも可能。Tel.(856)21-214410

<アマリン Ammalin Lao Silk>

ラオスの伝統的な高床式住宅をそのままギャラリーブティックにした南国情緒豊かな店。ファッション、ファブリック、バッグやクツ類も。Tel.(856)21-251121

<ホアイホン職業訓練センター Houeyhong Vocational Training Center for Women>

女性の自立を目的とする、染織、縫製技術の職業訓練所内にあるギャラリー。生徒や卒業してプロになったメンバーによる布、衣類、ファブリック、袋物など。

Tel.(856)21-560006

ルアンパバーン Luangphrabang

<マダムミーナー Madame Meena>

古都の目貫通りシーサワンウォン通りに面す古布、古道具の店。商品の充実と女主人の気さくさが魅力。

Tel.(856)71-253445

<ケオモンティ Keomontrii>

シーサワンウォン通りに面すラオス伝統染織専門店。オーナーのケオモンティ氏のコレクションのレベルの高さは、世界的に有名。Tel.(856)71-253267

<ナチュラルダイズ Lao Textile Natural Dyes>

ルアンパバーン郊外、紙すき村にある布の店。近隣に住む、モンヤルー族の珍しい衣裳などの掘出し物が時々ある。Tel.(856)71-252803



チンダー



マイカム



ペンマイギャラリー



ニコーン・ハンディクラフト



アマリン



トルーカラー



ホアイホン職業訓練センター



ナチュラルダイズ



マダムミーナー



ケオモンティ

<著者略歴>

チャンタソン・インタヴォン

Chanthasone INTHAVONG



- 1953年 ラオス・ヴィエンチャン市生まれ。
- 1981年 お茶の水女子大学大学院人文科学研究科卒業
- 1982年 「ラオスのこども」設立 共同代表
- 1986年 東京都立大学大学院人文科学研究博士課程修了
- 1991年～ラオスの女性とともに仕事をつくる会設立 代表
ラオスの織物の紹介を通じ、ラオス文化を紹介。同時に、
女性の自立に必要な技術を習得するために奨学金を提供。
- 1992年 日本青年会議所 TOYP大賞'92受賞
- 1998年 ホアイホン職業訓練センター設立 代表
- 1999年 毎日新聞国際交流賞 受賞

<本書についての問合せ>

本の中でご紹介しました布、民族衣裳、また新作のショール、衣服、帯、小物などについてのご質問は、下記にお問い合わせ下さい。

〒151-0053 東京都渋谷区代々木4-28-8 #510
(有)フラド『ラオスの布を楽しむ』係
TEL 03-5351-7613 FAX 03-5351-3023
e-mail gallery@furado.com h.p http://www.furado.com

<写真提供:フラド>

2章(P.33,34,35,38,39) 3章(P.51) 5章(P.62~72) 6章(P.73~86)

<コレクション提供>

ドワンドゥアン・ブンニャウォン Douangdeuane Bounyavong (P.1,5,29,47,48)
ケオモンティ Keomontrii (P.50)
中田路子 (P.52)

<撮影協力>

大橋ひろ美 P.30~39
大沢万寿己 P.40
古山敦子 P.42,44,45
木本知華 P.43

ラオスの布を楽しむ

発行 2006年12月10日 初版発行
著者 チャンタソン・インタヴォン
企画 (有)フラド
編集 堀田隆子
発行者 丸山晋平
発行所 アートダイジェスト
〒151-0053 東京都渋谷区代々木4-28-8
TEL 03-5351-7612 FAX 03-5351-3023
印刷所 昭和情報プロセス株式会社
製本所 株式会社難波製本

禁無断複製

© Chanthasone Inthavong 2006 Printed in Japan

ISBN4-900455-72-5 C0072

乱丁・落丁の場合はお取替えいたします。